

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

2024年度
笹川科学研究助成
助成対象者一覧表

2024年4月
公益財団法人 日本科学協会

目 次

(ページ)

2024年度	笹川科学研究助成	総	評		3
	重点テーマ： 「海に関する研究」	総	評		7
	人文・社会系	総	評		11
		助成対象者			17
	数物・工学系	総	評		19
		助成対象者			21
	化学系	総	評		23
		助成対象者			27
	生物系	総	評		29
		助成対象者			33
	複合系	総	評		41
		助成対象者			45
	実践系	総	評		47
		助成対象者			51
		応募・採択状況			53
2023年度	笹川科学研究奨励賞	概	要		55
		受賞者			57

* 本一覧は日本科学協会のホームページに掲載いたします。

2024 年度 笹川科学研究助成総評

笹川科学研究助成事業委員会委員長

笹川科学研究助成は、当時、助成団体への研究費申請のできなかった大学院生や研究生といった若手研究者を対象に 1988 年にスタートし、今回で 37 回目を迎えました。今では文部科学省の科学研究費（日本学術振興会が所掌）に特別研究員として認められた大学院生を対象とする申請枠ができ、また、民間の一部でも大学院生向けの研究支援事業が進められるようになりました。しかし、大学院の修士課程や博士前期課程で申請できるのは、本助成以外は未だ稀です。最近は比較的高額な薬品を必要とする遺伝子解析が様々な分野で広く使われるようになり、また昨今の論文投稿料や海外渡航旅費の高額な負担などを考えて、2023 年度から学術研究部門の 1 件当たりの助成上限金額を 100 万円から 150 万円に増額いたしました。

今年度の申請は昨年度を約 22% 上回る 1,395 件で、研究費の申請総額は 18 億 793 万円に上りました。厳正な審査を経て学術研究部門と実践研究部門を合わせて 307 件が採択されました。申請数が多かったため、採択率は昨年度の 27.9% から 22.0% へとかなり下がりました。学術研究部門の採択者 297 件の 75.8% は大学院生で、残りは 35 歳以下の非常勤または任期付き雇用研究者です。学術研究部門では、女性研究者が 33.0%、留学生及び外国籍研究者が 11.1% でした。こうした傾向は、このところあまり変わっていません。今年度で、笹川科学研究助成の助成総数は 11,161 件になりました。今や、国内で活躍しているすべての年齢層で助成研究者が活躍していて、大学や研究所の研究者のおよそ 10 人に 1 人が OB・OG といっても過言ではありません。37 年間の助成研究費は、総額が約 68 億円にのぼります。これはひとえに日本財団のご支援によるものです。

1997 年には、海洋・船舶科学分野の支援強化を目指して学術研究部門に海洋・船舶科学系を新設し、2018 年度まで 22 年間募集しました。しかし、分野的な偏りが感じられ、広範囲な海の研究分野を支援するため、2019 年度に海洋・船舶科学系を廃止し、代わりに学術研究部門のすべての系に「海に関する研究」のチェック欄を設けて募集したところ、従来の 2 倍以上の申請があり、研究分野も大きく拡大しました。以来、学術研究部門の全分野で「海に関する研究」を募集しています。

学生・契約研究者など、現行制度では研究助成を受けがたい身分の若手研究者に本事業はかなり周知されてきました。ただ、採択課題を見ると若手研究者に期待される萌芽性・新規性・独創性のある研究が必ずしも多くありません。昨今、指摘されるような「日本全体としての活力低下」があるとすれば、萌芽性・新規性・独創性のある研究自体の全国的な減少が懸念されます。加えて、学術研究部門の申請の 52.9%が生物系で、複合系、数物・工学系、化学系の申請にも生物課題が含まれることを考えると、全体の研究申請に占める生物分野の割合は極めて高く、年々この傾向が強くなっています。この状況は本研究助成事業だけでなく、国内外の他の研究助成事業でも同じと聞きます。

それぞれの専門分野の申請傾向については、分野責任者と各選考委員長の総評を見ていただくとして、全体に共通している点を三つ上げます。一つは、多くの研究が先鋭化していることです。研究成果を上げる点では素晴らしいことですが、ともするとその研究の位置づけを見失う危険があります。是非、少し引いた位置から自分の研究を眺める余裕を持っていたいただければと考えます。二つは、様々な科学・技術が開発された結果、無理矢理最新技術を使おうとする研究です。研究は必ずしも最新技術を使うことではありません。三つは、それぞれの研究分野、あるいは科学・技術全般を俯瞰した視点、または物事の考え方を変えることにつながりそうな研究課題が余り見当たらないことです。

実践研究部門では、2013 年度から学芸員・司書等が行う資料の調査・研究に加え、学校・NPO などに所属する人たちが行う調査・研究を支援する問題解決型研究の二つの窓口で申請を受け付けています。2024 年度の実践研究の申請は、学芸員等研究 14 件、問題解決型 32 件で、合計 46 件ありました。

2020 年の年明けから、世界的に流行した新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で国内外での現地調査をはじめとして実験室やキャンパスへの出入りが大幅に制限されるなど、研究活動が著しい影響を受けましたが、2023 年 5 月に 2 類相当からインフルエンザと同じ 5 類に移行し、平常に戻ってきました。審査では、制約された条件下での申請者の工夫に注目しました。

研究助成を受けられた方には、翌年 2 月に研究完了報告を提出していただき、それらをもとにして各選考委員会で研究評価を行います。2007 年度から、優秀な成果を上げた研究者には研究奨励賞が授与されています。学術研究部門の 6 系（生物系は生理・発生・分子・生化・遺伝などと分類・生態・農・水産などの 2 分野）と「海に関係する研究」、ならびに実践研究部門からそれぞれ 2 人ずつ合計 16 名が選ばれ、2024 年 4 月 19 日（金）の研究発表会で発表をしていただき、賞状と副賞が授与されます。発表の様子は、後日、Web 上でも映像として公開いたします。

さらに、日本で活躍している笹川科学研究助成者（OB・OG）には助成後もいくつかの支援を行っています。一つは、2001 年度に始めた海外での研究発表の旅費と参加費用の支援で、毎年 60～80 件に上ります。しかし、2020 年から 3 年間は COVID-19 の流行でほとんどの国際研究集会が中止され、ごく一部がオンライン開催となり、その参加費を支援しましたが 2023 年度中にほぼ元通りになりました。今後もオンラインを含め、国際集会での研究発表へのきめ細かな支援を進めてまいります。2020 年度の海外研究発表支援 20 周年を期に、20 周年誌「研究は海を越え、20 年の軌跡」（A4 版 64 頁）をまとめて出版しました。二つは、OB・OG と企業との関係の構築のための企業関係者を対象とした OB・OG の研究発表会の開催で、第 1 回を 2019 年 9 月に開催し、OB・OG と企業関係者の双方から好評をいただきました。しかし、COVID-19 の影響でその後の開催ができませんでしたが、2023 年 10 月に第 2 回を開催できました。三つは、OB・OG が進めている研究を社会に広く知ってもらうため、OB・OG を出版社に紹介して科学一般書として出版する支援です。2021 年 8 月に松田英子東洋大学社会学部教授著の「夢と読み解く心理学」（ディスカヴァー携書）が出版されました。以上の支援を充実させていくとともに、その他の支援も随時進めてまいります。

このように笹川科学研究助成事業は、日本国内で活躍する優れた若手研究者を発掘して長い目で支援し、日本をはじめとして世界の将来の科学・技術の発展に寄与してまいります。

2024 年度 重点テーマ：「海に関係する研究」総評

海洋関連研究責任者

ここでは、各系への申請の中で重点分野として「海に関係する研究」にチェックがされた申請書の評価を行いました。そのこともあって、様々な分野から多くの提案がありました。4年生と博士前期課程の申請者が全体の約60%、博士後期課程も加えると約85%となり、本年度も多くの学生からの申請がありました。今後も、多様な機関から意欲的な申請を期待しています。

1. 全体的な総評

- ・ 今年度の申請書に関しては、評価者の見た限りではよく書けているものが多くありました。しかし、申請書の中には、その目的が何なのか一読してわからないものも多少見られました。研究目的はもっとも重要ですので、申請書の「研究計画（1）研究目的」の中で、初めに背景を記述した上で、最後に数行で簡潔に記述するとよいでしょう。
- ・ 優れた申請が多く、競争が激しくなっています。単に「科学的に重要だが未解明だから」というだけでなく、成果の意義や発展性、本助成に申請する必然性、新たな研究アイデアなど、他の申請との差別化を図る要素が必要かと思います。
- ・ マイクロプラスチック汚染や、機能的食品などの人の健康に関わる研究が増えた印象を持ちました。それらのアプローチも生物学に留まらず、工学や化学などを交えた集学的なものも多くなりました。評価側も、これらの内容を理解して公平に評価するために多くの努力を払うこととなります。このことを、申請書を書くとき心に留めてください。つまり、読み手のことを想像してください、ということです。たとえば、申請書内に「重要である」という言葉がよくでてきます。研究室内あるいは専門学会の中では当然のこととして重要なものと認識されていたとしても、分野外の人にとっては、何がどういう理由でどのように重要であるかが説明されないとよく分からないのです。
- ・ 最先端のモデルや分析手法を用いる、あるいは開発する研究も多くありましたが、その中で、用いる手法が目的の達成にどの程度有効か、あるいは有効性が見込まれるか、何らかの具体的なデータが示された方が、説得力があるように思います。評価者は必

ずしもその専門に精通しているとは限りませんので、特に新規性、独創性が高いと思われるところは、そのベースになる手法の有効性・定量性を可能な限り明確に記述することが望まれます。また、研究のコンセプトや計画はきちんと書かれていても、文章だけでは、特に専門が異なる場合にはイメージが伝わりにくいところもありますので、わかりやすい図があった方が内容は理解しやすいと思います。

- ・ 申請書に誤字脱字の多かったことが気になりました。これは、読む側の集中力を削ぐものです。評価側も「人間だからミスはある」というのは理解していても、本助成のように多種多様な属性の方から多数の申請書が集まるようなところでたくさんのミスのある文を読まされては、評価側と申請側の双方に益のあることは一つもありません。一度申請書を寝かせて、クールダウンした頭で推敲をすることをおすすめします。
- ・ 学部生から若手教員まで総じてレベルが高かったと思います。高い倍率の中で採択されるには、どんな些細な欠点も大きなマイナスになります。誤字や脱字ではなくても、文章が練れていなかったり、図の説明文が小さくて読めないなどが理由で不採択とせざるを得ないものもありました。研究経費について、大雑把に計上したものもいくつか見られました。また、旅費見積もりの計画に甘さが見られるものもありました。研究計画に応じた物品や旅費を計上することは必須であり、研究内容と同様に細心の注意を払って計画を立ててください。
- ・ 最近、論文投稿料や海外渡航費が高価になっていますが、本申請は基本的に成果発表ではなく、1年間の研究費としての位置づけですので、あまり発表のための経費だけに偏る申請は望ましくありません。また高価な機器の購入だけに充てることも望ましくないことに留意して申請してください。
- ・ 研究予算は税金であっても助成金であっても、研究成果はきちんと公表することが期待されます。成果を学会などで発表し、さらに査読付きのジャーナルに論文として公表すると、研究は発展し、次の提案が採択される確率は高まると思います。

2. 個別の分野に関する総評

- ・ 生物分野の申請書には、最新の分子科学的な手法を取り入れているものが多く見られました。評価者は必ずしもその分野の専門家ではないため、特に最新の手法については、そのどこが新しく、それによってどのような分析等が可能になることで設定した目的に到達できるのかをはっきり記述してされると、より申請された研究の新規性や強みが伝わるはずです。(海洋生物分野)

- ・ 生物分野でもドローンを用いた調査手法の開発に関する申請が増えていますが、どの部分がオリジナルなのか明確にわかるよう記述していただくとよいと思います。(海洋生物分野)
- ・ 海洋環境、地球化学、地学分野のほとんどの提案書では、研究背景、目的、手法、計画などがきちんと書かれていました。仮説が書かれている優れた提案もありました。今年は採択可能なレベルの提案書が多く、例年以上に選ぶのに苦労しました。今年の特徴としては、従来だと海洋科学の分野外とみられる分野から、優れた提案がありました。将来が期待されます。(海洋化学・地学分野)
- ・ 海洋物理等海洋学やそれに関連する分野では、理論的なものから、既存の試料/資料を用いるもの、太平洋規模から沿岸域の現象など多岐にわたる内容の申請がありました。特に陸起源物質(プラスチックを含む)が海洋に及ぼす影響など、河川/地下水と海洋とを結びつけた研究計画も多くみられました。海流など流れや海洋構造に関するテーマについては、1年という短い研究期間であることもあり、数値モデルを用いた研究が多く、そのことが逆に対象海域は広くなるメリットにもなっているようです。一方、水質等に関わるテーマでは実際に試料を採取する研究が多く見られました。全体的に研究計画のレベルは高く、興味深い内容が多くみられました。(海洋物理分野)
- ・ 今年度、AI、ロボットといった工学分野の研究提案が多く見られ、また、何れも海洋および環境への応用を提案するものも多く見られました。特に海洋に関するものとしては、研究提案に興味を惹かれるものが多く、この分野の研究を行う若手研究者が増えていることへの期待感を持つことが出来ました。一方で、AIや自動化に更なる期待がされる船舶の分野については今回も研究提案が少なく感じました。自動車同様に船舶についても「100年に一度の変革期」をむかえているといっても過言ではなく、多くの船舶に関係する大胆な研究提案がなされることを期待します。また海洋開発の分野においても研究提案が少ないと感じました。今後、日本周辺海域では大深度水域で浮体を利用したエネルギー開発(電源開発や資源開発)を行う必要がありますので、研究者はそちらにも目を向けていただきたいと思います。新たな視点を持った研究者の登場を期待しています。(海洋工学分野)

- ・ 日本全体で取り組みが加速している洋上風力利用やそれ以外の海洋再生可能エネルギーの利用に関わる研究、漁業に用いる機材の高度化の観点からの研究など、実用の観点から課題設定がなされた研究が多く見られました。一方で、基礎的な研究として、海洋中における音響や光を用いたセンシングや通信、生物の仕組みを工学的に扱った研究、構造物の新しい材料や健全性評価などの提案など、今後大きく展開することが期待される研究提案や萌芽的な研究提案もあり、分野としてはバランスの取れた提案内容であったと思います。(海洋工学分野)
- ・ 昨年度の人文・社会科学系の申請件数は過去最高でしたが、今回は過去二番目の申請件数の多さとなりました。うち女性の申請が半数近くをしめました。前回同様に、量的に多かっただけでなく、全体として非常にレベルの高い申請書件が多く、選考に苦慮しました。次年度以降も、内容の濃い申請が集まることを期待します。(海洋人文・社会科学分野)
- ・ 化学と数物・工学の比較的多くの申請書が、「海に関係する」とするには海洋との関わりに関する記述が少なかったり、最終的には海洋に関係はするものの、実際の研究内容が海洋からほど遠いステップに集中したものが多かったように思います。中には、「海に関係する」とチェックを入れた形で評価されるよりも、より一般的な化学分野で評価された方が採択されそうな申請書も見られました。申請者は自分の申請が本当に「海に関係する」課題として適当であるか、よく吟味した上で申請し、「海に関係する」とするのであれば、その関連性を分野の異なる専門家でもわかるようにしっかりと記述してもらえればと思います。同様なケースは、一部生物分野の申請にも見られました。一方、複合分野で申請された申請課題の中には、人間生活や社会に関係の強い面白い申請も多くみられました。今後、このような複合分野の申請が増加することを期待しています。(海に関係する生物・化学・数物工学・複合分野)

2024 年度 人文・社会系総評

人文・社会系選考委員会委員長

<時代状況を受けた総評>

日本科学協会の笹川科学研究助成に、新型コロナウイルス感染症のパンデミック状況から脱して、落ち着きある世界状況と研究環境が戻ってきているなかで、若手研究者による多数の申請が寄せられたことは、今後の日本の学問研究の興隆に寄与するものと、おおいに期待するものです。

申請された分野ディシプリンも、心理学、教育学、社会学、文化人類学、地理学、歴史学、考古学、文学、政治学、美学、芸術学、経済学、農学など幅広い分野からの応募があり、留学生、女性研究者の応募も目立ちました。好ましい傾向として歓迎します。社会科学で言えば、政治学の実務は一定数ありますが、経済学系統の実務はもっとあっていいと期待します。

昨年度と比較して、修士からポスドク、助教、非常勤講師まで、応募者の幅が広がり、手堅い研究が少なくなく、申請内容の水準が全体により高まったように感じます。またその分、押し並べて標準的なレベルの研究計画が多く、例年と比較し評価の開きが少なかったと捉えています。気になった点は、人文・社会科学という枠を逸脱するかに映る申請が少数ながら存在したことです。学際的研究は歓迎しますが、最終的な着地点としては人文・社会科学という枠を意識したものであることを願います。この点から、方法論として自然科学的な方法をとる心理学では、より解説的な手続き説明の一層の工夫が求められるということです。

社会的な制限が少なくなってきたからこそ、また本協会の助成費の拡大が実現したからこそ、今一度、研究の実施内容とともに研究目的とその社会的意義を再確認する必要があるといえます。その独自性の説明が専門分野に閉じすぎて微細な説明に限られてしまい、より広い社会性からの意義や普遍性の付加が求められるなど、いくつか気になる点が出てきたのも事実です。そこで、以下に 2024 年度申請をめぐって、感想と留意点を記します。

＜個別の留意点＞

専門説明と普遍説明

専門性が十分に深められる研究である必要とともに、その意義が多くの人に理解できるように書く必要があります。研究のより広い分野での意義や社会性・普遍性の広がりを意識して、専門の異なる評価者にも理解できるように、独自性や意義をわかりやすく説明する工夫が必要です。心理学や人間科学の分野に、また人文社会分野と言いながら実験など方法論として自然科学の方法をとる研究に、この両面で説得力を持たせようとする、図表使用の工夫や初期理解を企図する説明がなされているかは、研究の意義と実際に伝えるのに必要な努力だと私たち選考委員会は考えています。専門領域を深く掘りこむ説明と広く社会的な意義の説明とが意欲的に叙述されている研究が増えています。その傾向が高まっていることを歓迎します。福祉学と心理学をつなぐ研究が多く現れ、福祉の枢要性という時代の要請を着実に捉えた良い研究が増えているのは、新規性ある実践的な切り込みの現れと理解しています。一層の両面努力を期待したいと思います。

申請分野

このような、専門化を深める説明と広い問題関心者にも伝える努力の必要性は、自らの申請分野に齟齬がないか、いま一度、申請者が再考する必要性とも結びついています。一部の申請には、明らかに学術世界で一般に承認される「人文・社会の範疇」を逸脱する研究が見られ、しかもそれが分業を集成した自然科学研究室によくある大規模共同研究や研究室全体の資金調達を目的としたと疑われる申請が見られることは遺憾です。自然科学と人文社会科学との距離を埋める説明努力を一層おこなうか、申請分野を変えて申請したほうがよいのではないかと考えられる申請も見られます。熟慮と対応に期待したいと思います。

独自性と新規性

独自性・新規性に充ちた問題意識を堅実に深めていく研究を求めています。その意味で、これまで存在したテーマでも新しい視角からの掘り下げがあるユニークな研究として、「明末清初に語られた宋の遺民－『宋遺民広録』を手がかりに－」、「トランスナショナルな音楽実践と四重意識の関係性－ハワイの沖縄系人を事例に－」など、独自性ある研究が挙げられます。

上記の申請書は、研究目的の明確性、調査手法の妥当性、研究内容の新規性・萌芽性・独創性、経費の必要性といった面から高く評価されましたが、特に、その研究がどのような好奇心から始まり、面白いと思う点はどこにあるのかが明確に伝わりました。さらに、研究意欲の持続性や将来の発展可能性についても読み取ることができる内容でした。

今後、若手研究者を取り巻く研究環境は益々、厳しさを増すことが予想されますが、幅広い知識に裏打ちされた強い好奇心と情熱を持って、自分が目指す課題にチャレンジしていただきたいと思います。独自性を示すための比較参照文献ですが、本文中に文献を参照しているが、文献リストが挙がっていないものがありました。抜け落ちのないよう堅実に説いてほしいと希望します。

研究計画―内容・方法の明確化と「マクロビジョン・総合研究達成と単年度申請」

研究内容は、研究の学術的意義をはじめ、その研究計画が研究者としてどのような好奇心から導き出されたものであるのか、あるいは、人間社会が抱えている様々な課題にどのような貢献をすることができるのかが理解できるものであることが望まれます。その研究の明確性を前面化するためには、「研究の実施内容」欄に、研究内容そのものを列記するだけでなく、研究を実施するにあたっての方法（調査、資料収集、実験、インタビュー、アンケート調査など）を研究内容に沿って具体的に書くことが重要です。時代状況もあって、対面ではなく、オンラインサーベイによる研究が増えてきていますが、特にアンケート調査ではどこまで有効性を担保できるか、十分な説明をおこなっておく必要があります。

研究計画について、自分の研究としてスケールの大きい研究や比較研究を持っていっているのですが、本助成のような単年度申請では、焦点を絞る方法も説得力を持ちます。時代思潮を抽出する全体研究のビジョンを示したのち、単年度に実現可能なテーマに集中する工夫を加えるなど、テーマを明確にした研究が説得力ある申請となります。

予算の立て方 - 図書費、旅費、謝金、論文掲載費

支出計画では、図書費を漠然としかも多額に計上している申請が少なくありません。図書館などで閲覧可能と思われる書籍を購入しようとする申請は、評価が低くなります。そこでしか入手できない地方出版物や特殊な出版物など、「～分野関連資料」などと勝手に書くのではなくその書名を例示するなどして、図書資料の購入の必要性を説いて欲しいと思います。アルバイトを使うなど謝金の使用についても、それが本当に必要な助力か十分にチェックされることをお勧めします。基本的に、「自ら汗をかく」研究態度が求められます。また、一般に謝金はその意味が不明瞭になりやすいため、注意深く計上する必要があります。研究方法論上、実質的な現地調査を中心に据えるにしても、往復の旅費交通費だけ突出した料金で申請し、他の研究項目に資する出費を計上していないものも、実現可能性が低く評価されます。また理由も明示せず同一海外調査地に複数回渡航する申請も、低い評価となります。調査を外部発注する費用だけに巨額の費用が計上されているのも、好ましくありません。比較的大きな予算が必要となるウェブアンケート委託費用や赤外線カメラ・3D スキャナー・パソコンなどの機器購入費用を計上する際には、その必要性についての十分な説明が求め

られます。またアンケート調査のやり方として、調査会社に依頼するというのは、その依頼費用が全体経費の3分の2以上を占めている場合が多く、「丸投げ」感があります。もっと若手研究者らしい、あるいはいかなる研究でも本質と言える「自ら汗をかく」研究姿勢に期待したいと思います。委託費を含むにしてもそれを低減させて、多様な項目への研究経費必要性を計上されることを勧めます。

書籍の購入、旅費に突出した経費を計上するのも、研究の全体性から見て望ましくなく、研究を支える全体諸項目へのバランスある支出計画が望まれます。巨額の論文掲載料が計上されるのも、論文掲載が研究のアウトプットに属する点から見て、好ましくありません。下に示す学会費も同様に、研究内容を構成し肉付ける実質的な調査や研究活動への支出が基本となります。また、研究計画はまとまって説得力があるのに、計画と研究経費の合理的関連性が乏しい申請は、説得力を欠きます。

予算の立て方 - 機器、学会費

一部に「初めに研究費ありき」で、研究の学問的意義を図りかねるものも散見されました。機器の購入は、基本的に研究室や大学で用意してほしいものと考えています。支出計画を作るときには、調査や研究行為の頻度や場所、所在地、個数、機器の使用、そこに行くことの必要性など、研究計画をもう一度見直し、研究計画と支出計画に整合性があるかを確認してください。

支出計画で、もう一つ問題とするのは、学会参加費や学会年会費、さらには投稿料に当てる費用支出です。学会費は、申請に特化した研究課題に関係なく毎年発生する固定費だと私たち選考委員会では捉えています。人間科学の分野で特に、複数学会への参加で著しく多い学会旅費を計上している申請がありました。学会参加は、発表するとしてもそれは研究のアウトプット行為であり、「一般的な」情報収集の行動であり、研究そのものを構成し創り出す主たる活動や調査ではありません。

学会参加費、学会年会費、投稿料は、国内・海外を問わず、研究調査の支出項目としては優先度が低いものと考えています。ここでは多くの場合、研究計画に書かれている研究を深める内容と支出が一致しておらず、厳しい採点になるのは避けられません。パソコンソフトの購入も研究主題からすれば、周辺的な支出と判断します。研究内容の充実・発展そのものを形作る中心的で不可欠の研究活動への支出を堅実に組み立てていかれることをお勧めします。

推薦を依頼するにあたって

申請者の研究に随伴しながら後押しする推薦者の推薦文も、注意深く読み込まれます。今年、推薦書の中に総花的、皮相的な記述に終始するものが散見されたことは残念です。若手の研究者については、研究者、研究内容について、評価出来る部分と改善が求められる部分（発展可能性）の双方が存在するのが一般的だと私たち選考委員会では考えています。申請者には、推薦を依頼するにあたって、推薦者に対してその点を明確にすることを求めたいと思います。

以上の点を留意され、学問的意欲にみち誠実で独創的な研究申請を今後も行っていいただきたいと期待します。今年は、全体として、新型コロナウイルス（COVID-19）の状況改善に伴い、調査研究の制約が少なくなり、また、申請額の上限が引き上げられたこともあり、申請件数の増加に影響しました。留学生、女性の申請数も多くさらなる伸長を期待しますが、女性留学生（特に中国国籍）の申請者に占める割合が 10%を超えている現状があることにも、注目しています。かつては、中国人の応募に日本語と研究手続きに瑕疵ある申請が目についたものが、今日、中国人特有の観点をもつ研究、あるいは中国では助成が受けにくいと思われる研究が多く、総体的に評点の高い研究が多かったことをここに記し、留学生諸氏にはさらなる独自性ある研究へと発展していただきたいと期待します。自然災害や地球環境の変化やパンデミック経験を経て、現在、私達のライフスタイルに様々な変容が起こり、またそれが求められているところがあります。このような新時代 - 新状況に対応した、新たな研究課題の発掘・展開にも期待したいと思います。

〔人文・社会系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
宮城県	2024-1001	張 蕊	女	中国	東北大学国際文化研究科	専門研究員	異種同根に着目した日中母体保護思想の統合的研究	300,000
	2024-1016	成澤 みく	女		東北大学大学院環境科学 研究科東北アジアセンタ ー	博士後期課程2年	気候変動対策における海藻養殖の役割に関する研究-パラオ共和国の事例から-	1,130,000
茨城県	2024-1018	清水 大地			筑波大学大学院人文社会 ビジネス科学学術院人文 社会科学学術研究群	博士後期課程3年	マラウイの寡婦貧困層の世界から社会的保護の施策設計を検討する開発人類学的研究	1,030,000
埼玉県	2024-1025	山本 敦			早稲田大学人間科学学術 院	講師	非典型的相互行為の分析のための方法論・認識論的な検討とその有効性の検証	550,000
東京都	2024-1011	RAN NIANZHOU	女	中国	一橋大学大学院言語社会 研究科	博士課程6年	1920、30年代における中国モダニズム文学の形成	950,000
	2024-1027	奥田 弦希			東京大学大学院人文社会 系研究科	博士課程3年	二重制期ハプスブルク帝国のムスリム及び対ムスリム政策：イスラームの法的公認過程を中心に	1,080,000
	2024-1005	顧 嘉晨		中国	東京大学大学院人文社会 系研究科アジア文化研究 専攻	博士後期課程4年	明末清初に語られた宋の遺民-『宋遺民広録』を手がかりに-	940,000
	2024-1015	横山 雄大			東京大学大学院総合文化 研究科国際社会科学専攻	博士課程4年	戦後東アジア漁業秩序の形成と変容：日中台漁業交渉史(1950-80s)	1,330,000
	2024-1014	山本 佳徳	女		東京藝術大学大学院音楽 研究科音楽専攻音楽文化 学研究領域	博士後期課程2年	女性歌三線奏者と周辺の人々の関係性が及ぼす女性による歌三線演奏への影響	400,000
	2024-1012	澤田 聖也			東京藝術大学未来創造継 承センター大学史料室	教育研究助手	トランスナショナルな音楽実践と四重意識の関係性ーハワイの沖縄系人を事例にー	800,000
	2024-1020	田淵 舜也			慶應義塾大学大学院法学 研究科	博士後期課程4年	学問政治家としてのヴィルヘルム・ヴィンデルバントと南原繁ーシュトラスブルク大学から新制東京大学へ	850,000
	2024-1022	王 姝	女	中国	早稲田大学大学院文学研 究科	博士後期課程6年	東魏北齊における菩薩像の研究-半跏思惟像の様式と信仰、伝播を中心に	800,000
	2024-1006	倉野 靖之			中央大学大学院文学研究 科東洋史学専攻	博士後期課程2年	英国統治期のパレスチナにおけるアラブ人の政治活動と英国の治安維持ーアラブ人暴動と警察再編に注目してー	750,000
	2024-1008	大辻 航暉			日本大学大学院法学研究 科公法学専攻	博士後期課程2年	UNCLOSにおける安定性の位相ー海面上昇をめぐる議論に着目してー	870,000
	2024-1023	高田 彩	女		國學院大学日本文化研究 所	客員研究員	宗教集団の家族経営の解明-「宗教シャドウ・ワーク」に注目して-	500,000
	2024-1002	吉田 ますみ	女		(公財)三井文庫社会経済 史研究室	研究員	第一次世界大戦後の日本海運における企業と「国益」ー「海洋国家」論を手がかりにー	500,000
山梨県	2024-1031	櫻庭 陸央			帝京大学文化財研究所	助教	縄文時代における動物解体技術の研究	460,000
京都府	2024-1021	畔柳 理			京都大学大学院アジア・ アフリカ地域研究研究科 アフリカ地域研究専攻	一貫制博士課程4 年	モザンビークにおける地場の製造業の生産能力の変容:生産システムに着目して	1,200,000
	2024-1003	古月 翔矢			京都大学大学院経済学研 究科	博士後期課程4年	イギリス海軍による艦船建造事業の民間委託と「外部委託国家」論の一考(1689年~1714年)	1,220,000
	2024-1026	田中 瑠莉	女		京都大学大学院人間・環 境学研究科共生文明学専 攻	博士後期課程5年	開発による環境の改変と絶滅危惧種の保全に関する研究:対馬における道路建設とヤマネコとの共生を事例に	740,000
	2024-1028	竹田 響			京都大学大学院人間・環 境学研究科共生文明学専 攻文化人類学分野	博士後期課程5年	東北アジアに拡がる在日朝鮮人を基点とした親族関係に関する文化人類学的研究	900,000
	2024-1019	吉田 彬人			京都大学大学院人間・環 境学研究科人間・環境学 専攻	博士後期課程1年	近世初期藩領における産業の空間構造の解明ー小倉藩・熊本藩を中心にー	950,000

〔人文・社会系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2024-1004	蘇 哲誠		香港	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科	博士後期課程4年	19世紀前半期におけるアメリカ人宣教師と日本人漂流民送還の関係ー「ABCFM文書」に基づいてー	1,060,000
	2024-1024	湯谷 菜王子	女		立命館大学大学院社会学研究科応用社会学専攻	博士後期課程2年	児童扶養手当制度の変遷における母子家庭の序列化と家族規範の構築	750,000
	2024-1017	酒嶋 恭平			京都府立大学文学部歴史学科	共同研究員	前期ローマ帝国におけるペルシア人イメージに関する研究	650,000
大阪府	2024-1013	陳 曉淇	女	中国	関西大学大学院東アジア文化研究科文化交渉学専攻	博士後期課程3年	東アジア翻訳史における魯迅：原文忠実思想の形成と共有の軌跡	800,000
兵庫県	2024-1029	Wolfs Benjamin		ベルギー	神戸大学大学院国際文化学研究科	博士後期課程4年	日常生活における「価値」の再発見ー龍野城下町のライフスタイル移住者に着目してー	300,000
	2024-1010	徳田 恵	女		神戸大学大学院国際文化学研究科文化関連専攻	博士後期課程2年	極北域出身の先住民のホームレス女性の都市移住の要因の解明ーカナダ・エドモントンの事例を通してー	550,000
	2024-1032	堀田 奈穂	女		関西学院大学大学院社会学研究科社会学専攻	博士後期課程1年	沖縄の女たちと「美容室」ー美と粧いをめぐるグローバルな実践	500,000
鳥取県	2024-1009	遠山 裕基			鳥取大学農学部	プロジェクト研究員	農家による種籾の取得手段が稲作の生産性に与える影響：メコン流域国における実証研究	850,000
広島県	2024-1030	田中 志歩	女		広島大学大学院国際協力研究科	博士後期課程3年	バングラデシュのロヒンギャ難民ホストコミュニティにおける教育制度需要変容ー山岳少数民族に着目して	550,000

2024 年度 数物・工学系総評

数物・工学系選考委員会委員長

数物・工学系の申請課題は、宇宙・地球科学、素粒子物理学、物性物理学、材料科学、計測工学、環境科学、都市・建築工学など広範囲に跨っています。2024 年度の申請では、計測工学の申請課題が特に多く、その対象は生命科学を含めて広範囲にわたっており、社会の要請に対する貢献と波及効果に対する意識の強さが印象的でした。各分野での総評は下記の通りです。

宇宙・素粒子物理学分野では、素粒子理論とその天文学への応用が中心で、レベルの高い申請課題が多くありました。高度な数理科学的知識が要求される中で、挑戦的で独創的な研究課題が多くありました。

惑星・地球科学の分野では、小惑星リュウグウから持ち帰った物質に含まれる地球外アミノ酸の高感度エナンチオマー分析による生命起源物質の起源と進化に関する研究など、野心的な研究課題が印象に残りました。

数理科学の分野では、機械学習を活用した航空宇宙工学の研究、言語と運動の連携など、独創的で特徴のある研究課題が多くありました。また、人工知能 (AI) を用いた研究課題は時機を得た研究であり、今後の研究対象の広がり期待が持てます。

物性科学の分野では、種々の物性現象を解明するため、高度な計測技術の開発や新奇的な物性現象の開拓に取り組む申請課題が多く、今後の発展に期待できます。

計測工学の分野では、センサーとセンシングシステム技術に関する申請に優れたものが多く見られました。柔軟なイオン恒常性モニタリング用センサープローブ、レーザー超音波顕微鏡欠陥検査への機械学習の導入など、今後の研究の充実が期待されます。また、基礎的基盤研究においても、新進の研究者の新しい着眼を感じさせる申請が見られました。例えば、大脳皮質における知覚点火メカニズムのモデル化などがあります。若手研究者の独創性による今後の発展が大いに期待できます。

環境科学や都市・建築工学の分野では、申請者が例年に比べて増加しましたが、研究対象が自然科学から人文社会学に跨っており、また研究手法の多様さが印象に残りました。研究手法の中では、アンケートによる調査研究など社会学的なアプローチが多く見られました。

申請者（申請時）は、学部生、大学院博士前期課程および後期課程、博士研究員、助教などに跨っていますが、大学院生の申請者が約 80%を占めており、総じてレベルの高い申請課題が多くありました。採択されなかった申請課題でも多いに期待でき、次回の申請に期待しています。

なお、大学の重要な使命の一つは、若い才能ある学生や研究者を育て、未来につなげることにあります。独創的で将来性のある研究課題に取り組んでいる学部学生や大学院生が、笹川科学研究助成を受けて研究を促進することは、若手人材育成にとって非常に重要であると考えています。

〔数物・工学系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2024-2019	八重樫 健吾			北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻	修士課程2年	状態推定技術を用いた網漁具制御と流体力係数推定に関する研究ー適応制御とサロゲート化で実装化を目指すー	1,180,000
宮城県	2024-2018	呉 京宣		中国	東北大学大学院医工学研究科医工学専攻	博士後期課程1年	脳内におけるイオン恒常性モニタリングのための多機能かつ柔軟なロボティックプローブ	610,000
	2024-2026	中村 悠斗			東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻	博士後期課程1年	複雑流動における不安定現象に対するデータ駆動科学を援用した安定性解析手法の導出	1,050,000
	2024-2006	高田 一輝			東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻	博士前期課程2年	フローティングベースを有する小型双腕ロボットを用いた効率的な水中デブリ除去の実験的検証	1,320,000
茨城県	2024-2007	野沢 公暉			筑波大学大学院数理物質科学研究群	博士後期課程1年	高キャリア移動度材料の薄膜技術構築と超高速フレキシブル・トランジスタの創製	970,000
栃木県	2024-2015	田畑 研太			宇都宮大学工学部基盤工学科機械システム工学コース	助教	マンタの生体を模倣したバイオミメティクスロボットによる海洋魚のモニタリングシステムに関する研究	850,000
	2024-2029	三國 文菜	女		宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	修士課程1年	Euglena. Fuscaの表皮帯構造を規範とした超汎用流体内推進機構の開発	1,260,000
群馬県	2024-2016	中島 未椰			群馬大学大学院理工学府理工学専攻	博士後期課程1年	自己教師あり学習に基づく超音波非破壊検査のための革新的欠陥検出法の開発	1,050,000
埼玉県	2024-2008	木山 景仁			埼玉大学大学院理工学研究科	助教	加熱油中における水蒸気爆発プロセスの解明：エアロゾル発生を解決するスマートセンサの開発にむけて	1,050,000
千葉県	2024-2024	柯 夢南		中国	千葉大学工学研究院	助教	次世代集積CFETに向けた2次元物質素子技術基盤の構築	970,000
	2024-2017	大里 健			千葉大学先進科学センター	助教	次世代宇宙広域探査に向けた多波長宇宙論的シミュレーション	900,000
	2024-2031	渡慶次 孝気			東京大学宇宙線研究所	特任研究員	特異点解析と確率形式で解き明かす原始揺らぎの非摂動効果	960,000
東京都	2024-2004	秋良 花綾	女		電気通信大学大学院情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻	博士後期課程3年	大脳皮質局所回路による知覚点火メカニズムのシミュレーション研究	840,000
	2024-2023	董 書闢		中国	東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門	准教授	大規模な変形を伴う沖合浮沈養殖システムの応答予測と制御	1,240,000
	2024-2022	荻野 光司			東京工業大学大学院環境・社会理工学院建築学系	博士後期課程2年	オープンソース衛星データを用いたGISデータ整備モデルの構築と避難シミュレーションへの応用	660,000
	2024-2014	吉田 崇英			東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	博士後期課程1年	言語から運動へ：アンドロイドALTE R3と大規模言語モデルを用いた意識へのアプローチ	1,050,000
	2024-2012	小林 大輝			東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設	博士課程1年	氷高压相における多角的構造解析法の確立：部分秩序相の平均および局所構造の解明	880,000
	2024-2002	富樫 磨由	女		東京農工大学大学院工学府化学物理工学専攻	博士後期課程1年	位相差STEMを用いた高分子圧電体の構造と分極分布の可視化	970,000
	2024-2010	寺島 伊吹			東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻	博士後期課程2年	クォーク自由度と結合したハドロン間の相互作用の解明：エキゾチックハドロンへの応用	520,000
	2024-2032	Pranshu Bhatia		インド	創価大学理工学部	ポストドクトラルフェロー	農業廃棄物残渣のバイオ炭を利用した嫌気消化・人工湿地での新規処理法の開発	970,000
新潟県	2024-2028	土田 駿			新潟大学大学院自然科学研究科数理物質科学専攻	博士後期課程2年	キャリアドープにより半金属化した励起子絶縁体の試料育成と物性測定	860,000
	2024-2011	沈 志明		中国	長岡技術科学大学大学院技術科学イノベーション専攻	一貫制博士課程5年	ナノ秒パルス電場を用いた複合材料内部構造の直交双方向配向手法の開発	530,000

〔数物・工学系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
富山県	2024-2033	太田 玖吾			富山大学大学院理工学教育部ナノ新機能物質科学専攻	博士課程2年	新しいハニカム構造を持つ希土類金属間化合物の新奇電流磁気効果の検証	740,000
愛知県	2024-2027	大宮 悠希			名古屋大学大学院理学研究科	博士後期課程2年	超精密X線分光衛星XRISMによる衝突銀河団プラズマの攪拌と宇宙最大の粒子加速	860,000
	2024-2021	峰行 彩華	女		名古屋市立大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻	修士課程2年	改良小径ドリル型削孔試験機、光学的計測法と不連続変形法による歴史的組積造建築物の耐震性能評価	770,000
京都府	2024-2020	閻 儲珮	女	中国	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻	博士後期課程2年	不確定性の配慮と伝統的住宅の景観保全視点から見た住宅部門カーボンニュートラルを実現する道筋	1,050,000
大阪府	2024-2013	岩松 幸花	女		大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻	特任助教	洋上ウィンドファームにおけるサブステーション機能を有した超大型浮体構造物の弾性挙動	1,260,000
	2024-2003	趙 子豪		中国	関西大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程2年	トビムシの構造を模倣したナノ構造の創製とSDGs達成に向けた新材料～生物付着防止を含んだ防汚性評価～	830,000
奈良県	2024-2034	規家 涼太			奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士後期課程3年	レーザーを用いた多重選択型細胞分取システムの創成とその応用開拓	940,000
鳥取県	2024-2001	Potiszil Christian		イギリス	岡山大学惑星物質研究所	助教	地球外アミノ酸の高感度エナンチオマー分析による生命起源物質の起源と進化に関する研究	1,500,000
高知県	2024-2009	越智 一成			高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	博士後期課程3年	超流動量子渦に閉じこめられた不純物粒子のボーラロダイナミクス	300,000
鹿児島県	2024-2025	佐藤 壮紀			鹿児島大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程3年	Tsai型Ag-In-Yb準結晶表面に吸着したペンタセンの反応性に関する第一原理計算を用いた検証	950,000
沖縄県	2024-2030	福田 拓未			沖縄科学技術大学院大学フェムト秒分光ユニット	博士研究員	2次元層状半導体の光学フォノン振動とその高次周波数発生メカニズムの解明	960,000

2024 年度 化学系総評

化学系選考委員会委員長

本研究助成の化学系領域に応募されている皆さんは、これから数十年の間、化学が抱えている大きな、そして本質的な問題について、社会生活の維持と課題解決の同時進行を図るうねりの当事者となって活躍することが囑望される皆さんです。化学は人間の歴史の中で社会と人々の生活に大きな影響を与え続けています。特にここ一世紀は地球上の生活に化学がもたらした変化は甚大です。同時にそれまでの化学の物質科学としての範囲を大きく超えて、生命、光電子技術、人工知能をはじめあらゆる分野で化学的な理解を基に技術展開が進んでいます。しかし逆に、大部分の生活者は化学の原理に基づく理解を諦めてしまうようになっているようです。化学的思考が社会の判断基準とはなっていない事態の改善が見通せない状況下において、社会の中で化学がどのような影響を与えていて、そしてそれが人類の営みとして不可逆的なものか否かを見極めて、適切な解決策を提示して実行する当事者となることを皆さんは期待されております。責任は重いですがやりがいのある大きな役目です。そのような皆さんが研究キャリアの助走期間と云える時期にどのように研究に対峙して、どのような考え方をしているか、特に本助成の目指す、因われない考え方を提示してくれるか、その辺りにどう応えてくれるのかを楽しみにしています。その観点からは、現状の仕事の延長にとどまっていないか、解決すべきことは分かるが方法としての深化は見えるか、将来の指導原理の芽に気配りがあるか、いろいろ考えながら、私達自身の反省にも照らし合わせ、審査しております。

本年度の申請について、無機化学・物理化学、有機化学、高分子化学、材料化学などと、それ以外の分野とに大まかに分けて、「研究課題の傾向」と「研究の計画・進め方の傾向と今後の申請に期待すること」を述べます。

「研究課題の傾向」

無機化学・物理化学の分野ではナノ粒子などナノサイエンス関連、燃料電池や環境関連など時流に乗ったテーマも多く見られたことが今年の特徴のように感じられました。ユニークかつ大変興味を惹かれるものも目につきました。例えば宇宙から持ち帰ったサンプルを扱うことに関連する技術、世界中で栽培されている植物への環境からの放射性元素の混入状況の研究などです。

基盤有機化学、生物関連有機化学の分野では新物質探索・新反応・新分析手法開拓などを軸とする、すぐれた研究提案が多数見られ、21 世紀半ば以降の日本の科学技術先導への大きな先駆けになることを期待させました。AI をうまく使って仕事を進めようとする社会の流れの影響も大きいようで、データベースを参考にする方法探索補助レベルから脱皮して AI を研究全体に積極的により大きくとりいれようとする申請も目立ちました。

有機化学の中で、機能性分子素材などの非生物関連物質を対象とする研究申請では、光反応やメカノケミカルなど分子を反応可能なレベルまで活性化する新しい合成手法の計画が多く見受けられました。目的生成物の有用性だけでなく、副生する物質や放出されるエネルギーを総合的に考えてより望ましい物質変換を探るものです。このような姿勢は元々化学の本質ですが、一時期グリーンケミストリーなどの言葉が多用されて誤った印象が世間に広がっていました。それが自然な形で当たり前の化学の姿として認知され直されつつあることは好ましいことと思います。ラセミ化しやすい化合物についてそれを逆手にとって高収率でキラル物質を得るテーマなど、過去に行われてきたアプローチを再検証して望まない副生物を抑制する試みは有望な研究姿勢と期待がもてました。

高分子分野・複合有機分子の分野では生体由来高分子・生体関連高分子に関するものが主流でした。SDGs を意識した研究課題が多く見られ、特に環境への負荷軽減の取り組みが目立ちました。いわゆる、新奇ポリマーの開拓や合成法研究は多くありませんでした。

その他の領域では材料関連、問題解決の原理、新奇な方法論などが提案されていました。材料開発課題では、分子に機能を組み込むという「分子設計型」の研究計画が目立ちました。それに対して、有機分子の結晶化によって機能を発現しようとする試みがいくつかありました。分子の並び方と現れる性質とを相関付けて繋げて考える原点回帰という側面もある姿勢と云えます。共有結合よりずっと弱い相互作用で分子を空間内に固定配列させることを通した追究は、これまでポリマーで実現してきた物質開発の代替の意味をもつと思われる。物質の集合体中の作用機序を見極めるという掘り下げ、また、配列のリセットの容易さから物質循環途中での物質保全の歩留まり向上への大きな寄与も期待でき、今後拡大が予想される流れかと思いました。核技術への化学原理的なコミットも見られ重要な問題の解決技術開拓として期待されます。日本では化学の教育でも蓋をしてしまうことも多い核関連の科学ですが、冷静な科学的立場での検討を期待したいと思います。炭素以外の元素による有機分子模倣物質の探求、分子間相互作用の基礎的な研究の計画等、謙虚な姿勢での着実な研究の中で今まで見過ごされていた指導原理が見えることになるかもしれないと期待しています。一方、プロセス化学のテーマの申請もいくつかありましたが、指導原理の見据えが見えないなど深化が足りないように思えました。

「研究計画についての傾向と今後の申請に期待すること」

申請計画の全体的な俯瞰から気づいたことを述べます。

総じて多くの申請がしっかり書けていて、研究計画が具体的に記載された優れたものが多く、申請者の熱意は伝わってきました。しかし、目的達成のための科学的根拠が曖昧なものや不明確なものも散見されました。研究の概念を、科学的にしっかりと論理立てて記述する工夫が必要と思われる場合も少なからずありました。

本研究助成としては大いに歓迎するところではありますが、すぐには応用に結びつかない基礎的な研究テーマも多く見られました。そのようなテーマの応募では目的や期待される効果や影響を必要十分な質と量で書くことが最低水準の要求となります。特に理論的な研究の場合丁寧な気配りが必要です。一方、目的は壮大ですが、計画と目的が結びついていないように思われるもの、具体的な計画が分かりにくいものも散見されました。すべての人に分かるようにという必要はないと思っています。しかし誤解や過大な期待を誘発することは避けなければなりません。その分野の専門家ではなくとも、化学の考え方をある程度深化させた人には琴線に触れるような「何か」が欲しいと思います。

新しい手法を展開する計画の申請では、「自分だからできるのだ」ということを意識して、その考えに至った流れが読み取れる説明とそれに沿った計画が望まれます。奇を衒うのではなく、日頃の活動の中でアンテナを張っていて自分で見つけた視点、不連続に見えることを繋げる観点、そういう姿勢から自然と湧いてくるもの、それを視たいと思っています。

一方、プロジェクトの分担の仕事の申請、ライブラリー構築の申請もみられました。研究キャリアのスタートに立ってから途切れることなく成果の発表が求められる風潮は、昨今確かに存在します。敢えて申すまでもないですが、研究成果の発信責務の遂行は大切であり、申請者の皆さんには筆頭著者としての仕事を成し遂げてそれを学術論文に公刊し、また国内外の学会などでしっかりと発表討論、交流することを期待したいと思っています。ただし、発表できるデータを得るための仕事だけが求められているわけではないことは肝に銘じていただきたい。重要な仕事の一つが学術の不連続的な進展の一翼を担うことです。

理化学分野、特に化学では、ポジティブな結果の得られないリスクがあります。そして新奇的な発見でないと論文発表が認められないという現実、また論文発表ができるかどうかの死活問題という実態の中で、確実にデータのでる仕事にしたいという気持ちも理解出来ます。しかし、それでもリスクを覚悟して、化学者として自分のすべきと思うことに従って、挑戦してもらいたいと思います。

研究の実働の前に、厳しい競合を経て研究助成を受けとる必要があるのが現実です。しかし期待される成果を強調することに捉われて学術としての本質を疎かにしてしまっていないか、自問することが必要だろうと思われます。目に見える成果を出し続けることが真に学術的なゴールへの障壁になるかもしれないこと忘れないでいただきたい。現状の大きな波に飲みこまれたり、研究室主催者のプロジェクトの一部としての、きつい表現になってしまい申し訳ないですが、安易な道を選ぶのではなく、結果が出るかどうか分からないところで苦闘していただきたい。定説と外れることであったり、きれいな結果ではなくて全く構わない、研究して初めて分かった何か、それを科学的に報告して糧としていただきたい。

笹川科学研究助成を受けた皆さんには、将来、胸を張って学会・産業界等で活動されることを望みます。現在はそこに至る初期に居て、その課程においては研究テーマの具体的選定、決定、遂行に加えて申請書作成でも、指導・推薦の先生方にたくさん指導されていることと思います。先生方にはその課程で申請者の主導性を自他共に認め顕在化していただくことを強く望みます。ぜひ、背中を押していただきたいと願っています。

〔化学系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
青森県	2024-3026	Kheamsiri Khemruthai	女	タイ	弘前大学大学院保健学研究科放射線技術科学領域	博士後期課程2年	土壌からコーヒーへの微量元素移行と飲用物中微量ミネラル量による健康影響評価	790,000
宮城県	2024-3023	栗山 佑世			東北大学大学院薬学研究科	特任研究員	アミン求核剤による鎖状内部不活性アジリジンのLewis酸触媒的位置選択的開環反応の開発	750,000
茨城県	2024-3027	林田 健志			筑波大学大学院数理物質科学研究群	博士後期課程2年	燃料電池カーボン触媒の電子スピン配置と触媒活性の相関究明による安価な材料設計指針の獲得	1,500,000
	2024-3003	西野 光太郎			筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学群	修士課程2年	界面張力測定に基づく溶媒抽出機構の速度論的評価	580,000
埼玉県	2024-3015	田中 泰地			埼玉大学大学院理工学研究科物質科学専攻	博士前期課程2年	ナフタレンの周縁部に非局在化する σ ラジカル合成と物性の解明	710,000
	2024-3014	鈴木 陽太			埼玉大学理工学研究科物質科学部門物質基礎領域	助教	超分子的多価ボロン酸に基づいた分子認識機構による新奇糖センシングアプローチ	1,500,000
千葉県	2024-3030	澤山 公貴			千葉工業大学大学院応用化学専攻	修士課程2年	高効率的な二酸化炭素変換を目指した二点活性化型ヨウ素触媒の開発	870,000
	2024-3009	譚 靈剣		中国	東邦大学大学院薬学研究科医療薬学専攻	博士課程3年	HIV感染症治療薬を目指したジンチョウグ科植物由来抗HIV活性ジテルペノイド誘導体の創製	580,000
	2024-3022	木ノ下 佑奈	女		東邦大学大学院理学研究科生物分子科学専攻	博士前期課程2年	タンパク質の高次構造予測を指向した蛍光タンパク質の高次構造を決定する要因の解明	680,000
東京都	2024-3039	中間 貴寛			東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻	特任助教	膜タンパク質を担持する超分子ナノディスクの創製	750,000
	2024-3004	柚木 雅志			昭和薬科大学大学院薬学部薬学科	博士後期課程3年	新規機能性分子を指向したアズレンを有する新規芳香族アミドの創製と立体構造解析	640,000
	2024-3008	廣瀬 光了			成蹊大学理工学部	助教	光応答性阻害剤の開発から展開される糖タンパク質の変換経路の時間的制御	860,000
	2024-3035	加藤 光輝			東京農業大学大学院生命科学研究所分子生命化学専攻	博士後期課程1年	新規糖尿病治療薬創出を志向したマンギノイド類の骨格構築法開発	810,000
	2024-3037	若狭 優惟	女		立教大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程1年	新規含ケイ素芳香族化合物の創成と性質解明：高周期典型元素不飽和結合化合物の有機化学への展開	810,000
神奈川県	2024-3011	三浦 一輝			東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科	助教	リガンド連結型光増感剤を用いたがん関連タンパク質光不活性化による分子標的型光線力学療法の創出	870,000
	2024-3031	安田 貴信			東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科	助教	抗体結合タンパク質の光クロスリンクによる全長抗体の蛍光・発光センサー化	810,000
	2024-3007	栗原 悠熙			慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻	博士後期課程3年	生合成中間体の高酸化度化によるマンザミン類の網羅的合成研究	810,000
	2024-3025	模素 希	女		麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻	博士後期課程2年	新たな生理活性物質供給源の確立を目指した動物由来希少放線菌からの新規化合物の探索	680,000
	2024-3016	深井 稜汰			宇宙航空研究開発機構太陽系科学研究系	特任助教	GED-ICP-MS/MSを用いたクラス1000クリーンルームの無機化学的環境モニタリング法の開発	870,000
富山県	2024-3028	仲村 光生			富山大学大学院理工学研究科生命・物質・エネルギー科学プログラム	博士後期課程1年	トランスサイレチンの液-液相分離過程およびアミロイド化パスウェイの解明	800,000
石川県	2024-3012	WANG Yan	女	中国	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻	博士後期課程2年	異なる輸送ルートで飛来するアジア大陸で発生した多環芳香族炭化水素類化合物の日本海沿岸都市への影響評価	1,320,000
岐阜県	2024-3040	山下 勝史			岐阜大学大学院工学研究科工学専攻	博士課程2年	NHC配位子-遷移金属錯体を活用した触媒的光誘起カップリング反応の開発	620,000

〔化学系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
岐阜県	2024-3034	黄 世斌		中国	岐阜薬科大学大学院	博士課程1年	過酸化脂質選択的に検出する近赤外蛍光プローブの開発	750,000
	2024-3005	櫻田 直也			岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	博士課程1年	マイクロ波が促進する連続フロー式分解反応の開発：プラスチックのケミカルリサイクル	800,000
愛知県	2024-3032	飯塚 夕夏	女		名古屋工業大学工学部生命・応用化学専攻	スタートアップ助教	ヘテロアレーンアミド基を活用した触媒創製による、四置換不斉炭素を有する非天然 α -アミノ酸構築	750,000
京都府	2024-3017	森竹 将之			京都大学大学院人間・環境学研究科相関環境学専攻	博士後期課程3年	フェニルアラニン誘導体が示す単結晶-単結晶脱溶媒転移の機構解明に関する研究	730,000
	2024-3001	黒田 悠介			京都大学大学院薬学研究科	特定助教	「プラスチック酵素」が実現するタンパク質の精密化学修飾	870,000
	2024-3033	川崎 みどり	女		同志社女子大学大学院薬学研究科医療薬学専攻	博士課程4年	キラル水酸化第四級アンモニウムによるラセミ体トロパ酸 β -ラク톤の動的速度論的な不斉加水分解	790,000
大阪府	2024-3013	富家 唯深			近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻	修士課程2年	γ -アミノ酸類をはじめとした長鎖アミノ酸類の網羅的合成法の開発	670,000
兵庫県	2024-3021	野田 直希			神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻	修士課程2年	有機ナトリウムを利用したクロスカップリング重合によるポリフェニレン合成	810,000
鳥取県	2024-3029	遠藤 大史			鳥取大学大学院工学研究科	博士後期課程2年	社会実装を志向した電解還元条件下でのグリコシルラジカルの発生とC-グリコシド合成への応用	740,000
広島県	2024-3002	平島 宗一郎			広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター	研究員	水環境中における新規浸透性殺虫剤の光分解特性に関する研究	870,000
	2024-3024	久保寺 裕進			広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士後期課程1年	ケミカルガーデンにみられる2種金属塩共存効果の機構解明	800,000
山口県	2024-3006	竹山 知志			山陽小野田市立山口東京理科大学工学部応用化学科	助教	四面体構造を有する第一遷移金属錯体の磁氣的・分光学的性質の系統的理解への挑戦	750,000
高知県	2024-3019	樋野 優人			高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻	博士後期課程1年	結晶構造相転移で実現するトランススケール有機結晶の創出	740,000
福岡県	2024-3020	佐々木 海斗			九州大学大学院工学府応用化学専攻	博士後期課程1年	両親媒性ビタミンB12触媒を利用したZスキーム型光反応系の構築と低活性塩素化合物の変換	830,000
沖縄県	2024-3038	東門 大輝			琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程2年	不斉フッ素化炭素を有するヌクレオシドの網羅的合成法の開発	810,000

2024 年度 生物系総評

生物系選考委員会委員長

生物系の場合、共通して生命現象を対象としていますが、アプローチが多岐にわたり、しかもそれぞれが高度に専門化してきており、さらに申請件数が極めて多数のために、採択研究が特定の分野に偏ることがないように、分野を分けて審査を行なっています。

生理・発生・分子・生化・遺伝などの分野

時代の流れで、年ごとにさまざまな網羅的な解析がかなり一般化し普及してきていると感じます。それだけにアプローチの上では互いに非常に似た印象を持つ申請内容も多く、独自性をどのように人にアピールするかが評価につながることも多くなります。

ゲノム解析等の技術的な進歩により、これまで分子レベルでの解析が困難であったさまざまな非モデル生物を研究対象とすることが可能になりつつあります。今後もそれらの生物が取り上げられることによって、より豊かな生命の歴史が明らかになることが期待されます。今年も実験動物として取り上げられる機会の比較的少ない生物を対象とした申請が見られ、単にこれらの生物に固有の生命現象の解明にとどまらず、それを進化の流れの中に位置付け、普遍的な理解に繋げようとする姿勢に好感が持てました。

網羅的解析結果と照らし合わせて、AI により因果関係など関連性を調べた上で候補分子を明らかにしようという提案もありました。研究対象の候補分子を絞り込むにあたり、独自のプローブ（近位依存性標識プローブ、イメージングプローブ、抗体、阻害剤など）を開発し、ユニークなスクリーニング法を確立するなどのアプローチは、オリジナリティが高く、独創的な研究を展開するのに大変有効な手段であると感じました。

申請書の書き方として、研究内容自体の独自性や新規性をわかりやすく記載してほしいと感じます。生物系の中でも専門分野が違う人が読んだら、この文章はどのように見えるだろうか、という視点で文章を見直すことは、どのような場合でも非常に重要です。研究のきっかけとしてある仮説を立てたと書かれているにもかかわらず、なぜそのような仮説を立てたのかの記述が全くない提案を読むと、知りたいことがわからず残念な気持ちになります。少し工夫すれば、研究に至る道筋を論理的に説明することが可能になるでしょう。また、研究に関連する内外の研究状況を説明する際、正確な評価を受ける上で、他人の成果と自分の成果を分けて説明することは重要です。説明もなしにある略号が出てきて意味が分からない記述が続いた後に、最後にその説明がされるケースが複数ありました。

ポストコロナで対面開催する学会がふえている中で、研究室外の若手同士や優れた研究者と議論することで、さらに切磋琢磨され、自らの研究のオリジナリティを日常的に意識することを期待します。海外開催の学会に参加する予定を多くのかたが書かれています。海外学会に参加する意義、関連分野で申請内容の研究がもつ国際的な位置付けをぜひ述べてください。

分類・生態・農・水産などの分野

今年度も、意欲的な申請課題が多く、選考には大変苦慮しました。研究領域も生態学・農学・発生学・生理学・生物工学・行動学・系統分類学などに関する幅広いものとなりました。

申請の中には、動物のロボットを使って動物の心理状態を推定するというような、大変に独創的な提案もあり、人間以外の動物の行動や心理についての研究も、ロボット技術の発展とともに、興味深いものとなっていく可能性が見えました。また、伝統的な課題としての分類学においても、ヒルガタワムシのような、あまり日の当たらない分類群について、網羅的な研究を行おうという意欲的な提案もあり、地道な研究を実施する若手の存在がかいまみえて嬉しい限りです。クモの生殖隔離やシロアリの埋葬行動と抗菌機構など、行動と生理や形態との関連を緻密に研究する課題もあり、研究がより深い方向に向かっていることが窺えました。さらに、よく知られている、甲虫の構造色やカブトムシの角について、あらためて疑問を投げかけるような課題もあるほか、定説となっている土壌中への適応に伴う、形態の変化傾向への疑問などを課題にするようになり、すでに解明されているようで、解明されていないことへの挑戦的研究も見られました。今後は、DNA 解析や AI などを使ったメタデータ解析なども含めて、これまで見過ごされてきた生物の生き様をより深く探求する研究が生まれそうです。一方、このような先端的な技術を用いた研究のみならず、基礎科学を進展させうる申請や、実証実験により真実を捉えようとする課題が数多く見受けられたのも、とても心強く感じました。また、地道な研究でありながらも、2023 年度に本研究助成を受けて着実に成果を獲得し、それをさらに進めようという申請もあり、本研究助成による研究の継続的支援の大切さも認識することができました。

採択に至った研究は、いずれも研究の視点がユニークであり、研究計画もしっかりしており、実施計画と支出計画の対応関係も明確な内容となっていました。しかし、一方で、採択に至らなかった申請については、以下に留意事項を示しますので、来年度以降の申請の参考にしていいただければと思います。

近年の助成金応募のトレンドとして研究タイトルをキャッチーなものにする気持ちはわかりますが、研究タイトルがあまりにも抽象的（大きすぎ）で、どのような生物を対象にして、どのような課題を明らかにしようとしているかが、明解でないものがありました。例え

ば、研究タイトルに関しては、「～の関係」、「～の関与」、「～の影響」のように結果のみの表現ではなく、「解明」、「究明」、「検証」、「研究」など、考察を含むタイトルにするのも1つ改善策になるかもしれません。さらに、不明瞭な研究タイトルの申請では、得てして非常に狭い研究領域の人にしか理解できない申請内容となっている傾向も見られました。研究分野が細分化される現在、特定の分野における当該研究の重要性と、申請者の持つ関心は書けているものの、その申請内容が客観的に見ても価値が理解できること、少し視野を広げて異分野の人でも、その価値を理解できるような申請書の書き方が大切と思いました。

若い研究者の方々からの申請が多くなっていることは大変喜ばしいことです。しかし、研究経験の少ない学士、修士課程の学生の場合、申請者独自の発想ではなく、所属する研究室で実施している研究の一部を担うと思われる研究テーマ設定や研究実施計画が見られました。そのためか、申請者がきちんと生物学あるいは進化生態学としての面白さを捉えて申請に及んだかが、疑問視されるものもありました。

本年度の申請に限らず、近年の申請では、多岐にわたる研究領域において遺伝子情報を利用することが常套手段となっており、これは遺伝子解析が比較的安価に外注できるようになってきたことも大きな影響をしていると思えます。ただし、研究予算に関しては、遺伝解析の委託費用も当然必要な事項と思いますので、実際のサンプル数や、解析に必要な数であるか、きちんと研究計画との関連性の中で、予算を組み立てて欲しいと思いました。また、経費の中に高額な備品の購入が含まれていた申請も散見されました。当分野の研究では、野外調査が研究の基礎をなすものも多く、それに関わる費用も当然必要とされるものと思います。しかし、その調査費用がどのように算出されたのか（調査計画との整合性）も丁寧に示してください。

今年も外国の生物を研究対象にしている申請がありました。この場合、生物多様性条約のABS (Access and Benefit-Sharing) に関わる法令遵守の必要があります。申請前に、研究を行う予定の相手国の研究機関と申請者の研究機関の間で共同研究契約書(MOU)が締結されており、問題なく研究を進めることができる申請もありましたが、一方で、ABSをどのようにクリアするかが示されていないものもありました。さらに、注意していただきたいのが、ABSへの対応は海外におけるフィールドワークでの研究対象生物ばかりではなく、国内のペットショップから入手した（あるいは継代飼育した）生物を研究に用いる場合でも（目的外使用となりますので）必要になります。また、申請書の中には、「名古屋議定書を遵守する」と述べているだけで、事前同意書(PIC)や相互合意条件(MAT)について具体的に述べていない申請もありました。ABSをクリアしていないと、研究課題が採択されても研究を遂行できなかつたり、研究結果を論文として発表できない場合があります。ABSに関わる研究に関しては、手続きがどの段階まで進んでいるかについても、申請書の中で具体的に述べるのが重要です。

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2024-4032	富安 洵平			帯広畜産大学獣医学研究部門	助教	繁殖期におけるウミガメの栄養状態調査～飢餓状態の繁殖期をオスアオウミガメはどう乗り越えるのか？	1,120,000
	2024-4047	若林 妙恵	女		帯広畜産大学大学院畜産科学専攻	博士後期課程2年	生殖隔離機構を引き起こす新規の原因遺伝子thb2の特定	630,000
	2024-4036	小川 萌日香	女		北海道大学大学院環境科学院	博士後期課程4年	グリーンランドの高次捕食者、アザラシをモデルケースとしたPOPsの生物濃縮性評価に関する研究	1,230,000
	2024-4016	名倉 のどか	女		北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻	修士課程2年	ネズミイルカPhocoena phocoena北西太平洋個体群の分類学的地位検討	1,200,000
	2024-4099	山崎 祐人			北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻	修士課程2年	PITタグを用いたサクラマス養殖用種苗生産における分養タイミングの推定	1,190,000
	2024-4043	眞田 崇弘			北海道大学大学院生命科学科学院生命科学専攻	博士後期課程1年	RNA結合タンパク質の複合体が脊椎動物の卵成熟を制御する仕組みの解明	970,000
	2024-4061	佐藤 丈生			北海道大学大学院生命科学科学院生命科学専攻	博士後期課程3年	RNA 結合タンパク質と機能性ゲノムに着目した精巢lncRNA ネットワークの解明	630,000
	2024-5038	阿部 悠	女		北海道大学大学院農学院農学専攻	博士後期課程3年	マウスの体温感覚を指標とした食肉中の「体を温める」・「体を冷やす」成分の特定とその作用機序の解明	940,000
	2024-4005	田中 海			東海大学大学院総合理工学研究科総合理工学専攻	博士課程1年	マナマコの夏眠および活動鈍化に関する生理生態学的研究ー消化管および触手の形態と消化酵素活性を中心にー	500,000
青森県	2024-4054	近藤 恵都	女		岩手大学大学院連合農学研究科生物資源科学専攻	博士後期課程1年	有性生殖可能な3倍体ブラナリアの雌性生殖細胞形成におけるユニークな染色体挙動の減数分裂機構の解明	950,000
岩手県	2024-5047	池田 小春	女		岩手大学大学院総合科学研究科地域創生専攻高度農林業プログラム	修士課程2年	ツキノワグマの人里出没は親から子へ継承されるのか？非侵襲的サンプルからの遺伝子解析	830,000
	2024-4094	市沢 翔太			岩手大学大学院連合農学研究科生物資源科学専攻	博士後期課程1年	なぜ健康なネコの腎臓に脂肪滴が大量蓄積しているのか、ネコ特異的な脂質代謝機構の解明	890,000
宮城県	2024-4092	武田 遥奈	女		東北大学大学院医学系研究科医科学専攻	博士課程4年	メディエーター複合体の動的リモデリングが駆動する核内レドックス感知機構の解明	1,220,000
	2024-5013	石井 康人			東北大学大学院生命科学研究科	修士課程1年	陸産貝類は海流分散が可能なのか？そのメカニズムはなにか？：実験的検証	760,000
	2024-4066	田谷 昌仁			東北大学大学院生命科学研究科生態発生適応科学専攻	博士課程2年	採餌戦略の可塑性が多種共存を可能にする：干潟の鳥類を用いた検証	990,000
	2024-4077	大見川 遥			石巻専修大学大学院理工学研究科生命科学専攻	修士課程1年	海のダンゴムシはなぜ丸くなるのか？	870,000
	2024-5042	小田 晴翔			石巻専修大学大学院理工学研究科生命科学専攻	修士課程1年	すね毛×脚タップ＝クロベンケイガニ：形態から考える社会行動の進化	660,000
	2024-4049	鈴木 将太			南三陸町自然環境活用センター	研究員	潮間帯上部で繁殖するテンジクダイ科魚類の稀種クダリボウズギスの生態及び分類に関する研究	1,260,000
山形県	2024-5035	庄司 森	女		岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学	博士後期課程1年	雪による細根の冷却は積雪林の樹木開葉時期の決定に関与するか：冬芽の吸水性と細根の通水性に着目して	1,120,000
茨城県	2024-4081	長尾 百華	女		茨城大学大学院理工学研究科理学専攻	修士課程2年	動原体複合体の局在と構成因子の多様化の実体解明に向けたカメムシの機能解析系の構築	1,050,000
	2024-4022	薄井 くるみ	女		筑波大学大学院理工情報生命術院生命地球科学研究群	博士後期課程1年	有用物質生産に向けた代謝インバランスの解消とそのメカニズムの解明	580,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
茨城県	2024-4029	小島 優音	女		筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群	博士前期課程1年	蝶番細胞に着目した軟体動物における二枚の貝殻獲得機構の解明	970,000
	2024-5028	原田 理帆	女		筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群	博士前期課程1年	円口類スタウナギと羊膜類の大脳皮質の相同性の検討-脊椎動物の大脳皮質の進化的起源の解明を目指して-	1,000,000
	2024-5003	遠藤 友彦			国立環境研究所生物多様性領域	特別研究員	野生哺乳類による水域利用が希少種の保全に与える影響についての検討	1,120,000
埼玉県	2024-4105	宇佐美 優奈	女		埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科	博士後期課程2年	転写因子の時限的プロテインノックダウンにより解明する腱発達のメカノバイオロジー機構	820,000
	2024-4074	坂上 拓真			埼玉工業大学大学院工学研究科生命環境化学専攻	修士課程2年	二色咲エキナセア品種を用いた「時空間的な」遺伝子発現機構の解明	740,000
千葉県	2024-4042	千田 克幸			千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻（薬学領域）	4年博士課程4年	尿中マイクロRNAと腎臓エピゲノム修飾の関連性解明；ネフローゼ症候群モデルマウスを使用した網羅解析	1,500,000
	2024-5005	近藤 悠			千葉大学大学院園芸学研究科附属宇宙園芸研究センター	特任助教	生殖過程における重力反応の実証－宇宙環境における種子・果実生産に向けて	1,060,000
	2024-4002	宇津 美秋	女		千葉大学大学院薬学研究科薬効薬理学研究室	助教	間充織細胞の老化に伴うスフィンゴ脂質代謝の変化、および微小血管内皮バリア機能に与える影響	1,050,000
	2024-4030	山崎 航輔			東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻	修士課程2年	標的分子分解における高時空間分解能マウスを使った病態メカニズムの解明	1,050,000
	2024-5026	鬼崎 華	女		東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	博士後期課程2年	日本列島における草食哺乳類の古生態と絶滅要因の解明に向けた食性推定法の確立	830,000
	2024-4057	富永 賢人			東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻	特任研究員	海洋細菌におけるタンパク質の相分離を介した環境適応機構の検証	880,000
	2024-5017	清家 瞳	女		東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻	特任研究員	昆虫の密度依存的な形態・行動変化の制御メカニズムを用いた生き物の「群れ」の理解	830,000
	2024-4097	Stock Maya	女	アメリカ	東京大学大学院大気海洋研究所新領域創成科学研究科自然環境学専攻	修士課程2年	瀬戸内海におけるホシエイの海面への垂直移動と水温に関係する季節移動	970,000
	2024-5007	和田 智竹			東京大学大気海洋研究所	特任研究員	日本国内のヒルガタワムシ類の網羅的な分類学的研究－日本のヒルガタワムシ研究の基盤構築を目指して－	1,060,000
	2024-5021	友井 拓実			東京理科大学	助教	タバコ異科接木と赤外光による農作物の自在な開花制御系の確立	1,130,000
	2024-5019	椿山 海應			東邦大学大学院理学研究科生物学専攻	修士課程2年	生物群集の温度反応モニタリングにおけるサウンドスケープの有効性評価	1,030,000
	2024-5022	福田 真平			東邦大学理学部生物学科	訪問研究員	甲虫における構造色の適応的意義：発色特性に着目した隠蔽効果と配偶者選択の検証	740,000
東京都	2024-4059	明石 桜	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	修士課程1年	ヨロイイソギンチャク属と褐虫藻は共進化してきたかを検証する	500,000
	2024-4104	児玉 円	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程1年	海流が海浜植物集団の形成・維持に与える影響の解明：42年前に侵入した外来種オニハマダイコンを用いて	570,000
	2024-4083	坂井 志穂	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程2年	迷走神経の神経伝達脆弱性を介して肝炎が脳内炎症を増強させるメカニズムの解明	720,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
東京都	2024-4018	江藤 暁			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用生命科学専攻	博士後期課程1年	駿河湾深海底における魚類を中心とした生態系の構造解明：種間関係を網羅する食物網の構築	790,000
	2024-4027	三浦 那々	女		東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	修士課程1年	クラゲの外皮に備わった化学防御機構の行動学、生化学、毒性学の3つの視点からの検証	1,050,000
	2024-4084	田中 絢音	女		東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	修士課程2年	海洋に分布するSynechococcus属群集は変化する光環境にどのように適応するのか	1,120,000
	2024-4051	吉澤 聡一郎			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻	博士前期課程2年	軟骨魚類由来の自然抗体の応用に向けた基礎的研究	890,000
	2024-4014	佐々木 映海	女		東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻	博士前期課程1年	微細藻類添加飼料のDHA補完機能と魚類の代謝へ及ぼす影響	1,120,000
	2024-5002	長澤 竜樹			東京工業大学生命理工学院	助教	進化的に高度に保存された魚類V1R陽性細胞における分子基盤構築と哺乳類との比較研究	910,000
	2024-4008	二川 慶			東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻	博士後期課程1年	アコヤガイ貝殻に含まれるバイオミネラルタンパク質の立体構造・機能解析	1,190,000
	2024-4010	下仲 雄大			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程1年	珪藻と窒素固定生物の共生が日本海の生物ポンプへ与える影響評価	1,340,000
	2024-4039	石岡 直幸			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程1年	新規養殖用飼料としてのヨコエビ類の利用性に関する研究	560,000
	2024-5009	荒谷 遥香	女		東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	博士後期課程3年	酸性硫酸塩土壌で発生する鉄過剰障害に対する圃場条件での耐性メカニズムの解明	910,000
	2024-4013	谷川 慶一郎			東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構生産生態学研究室	博士後期課程2年	PGR5過剰発現体を用いた、変動光に対する光合成応答の解析と作物への環境ストレス耐性の付与	590,000
	2024-5043	砂川 勇太			東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	修士課程2年	日本産ラン科植物の送粉様式の多様性と進化	640,000
	2024-4101	廣田 主樹			東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程2年	貝殻バイオミネラリゼーションの解明：鈣物化組織（甲）と非鈣物化組織（軟甲）の基質タンパク質の比較研究	1,320,000
	2024-4107	梅林 奎輔			東京農工大学大学院農学府農学専攻自然環境資源コース	修士課程2年	アオウミガメの食害および陸上土壌の負荷に対する海草の生理学的応答	660,000
	2024-4020	岩瀬 智春	女		東京農工大学大学院連合農学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程1年	卵由来スフィンゴミエリンによる細胞種特異的フェロトーシス誘導機構の解明	920,000
	2024-4071	EGOROVA DIANA	女	ロシア	東京農工大学大学院連合農学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	老化により神経細胞周囲のマトリックスが蓄積する分子機構の解明	1,220,000
	2024-4067	谷口 絵乃	女		東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	修士課程2年	鉄恒常性の維持への関与が見出された新奇機能未知タンパク質DRAnaKの機能解析	890,000
	2024-4072	山下 和可奈	女		国立感染症研究所治療薬ワクチン部門治療薬基盤開発室	修士課程2年	細菌を遺伝子レベルで制御する手法の開発	900,000
	2024-4065	栗根 大揮			昭和大学大学院薬学研究科薬理学分野	博士課程2年	真菌由来化合物を用いた糖尿病性腎症の治療戦略の構築—SMTP-44Dの作用メカニズムの解明—	830,000
	2024-5049	水野 郁美	女		昭和薬科大学薬物治療学研究室	特任助教	異なる意識レベルでの記憶研究	1,060,000
	2024-4091	太田 隼人			創価大学理工学部	助教	コンドロイチン硫酸Eを介した前立腺がんの去勢抵抗性獲得機構の解明	890,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏 名	性 別	国 籍	所属機関	職 名	研究課題	助成金額
東京都	2024-4045	中島 一豪			中央大学理工学研究所	客員研究員	島の樹上生態系における海洋資源の利用に樹木－着生植物－無脊椎動物間の促進カスケードが果たす役割	1,040,000
	2024-4100	武馬 聖二			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程1年	鯉節カビ内在ウイルスが鯉節発酵に与える影響の解明	1,050,000
	2024-5025	原田 菜里	女		東京都市大学大学院総合理工学研究科自然科学専攻	博士前期課程2年	土壌環境が菌類の形態に影響を及ぼすのか？野外操作実験によるアンモニア菌の解析	130,000
	2024-5040	瀬島 勇飛			東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士後期課程1年	土壌環境において定説に反する不利な体形進化“太形化”の適応的意義	980,000
	2024-4076	佐藤 博文			日本医科大学医学部	助教	機械刺激受容体候補分子TMCのマクロファージにおける機能の解明	1,500,000
	2024-5029	加賀 芳恵	女		(NPO)小笠原自然文化研究所	研究員	世界自然遺産登録地におけるヒメカタゾウムシ類の絶滅回避に向けた保全生態学的研究	790,000
神奈川県	2024-4044	小林 格			東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所	学術専門職員	非分散型ヒメヒトデ属の多様化プロセスの解明：ヒメヒトデは環状種か？	1,120,000
	2024-4052	佐藤 大介			東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所	博士課程2年	環形動物ミドリシリスの特殊な繁殖様式における二次尾部の形成機構	880,000
	2024-4011	高橋 捷也			横浜国立大学大学院生命医科学研究科生体膜ダイナミクス研究室	博士後期課程3年	クライオ電子顕微鏡を用いた立体構造解析によるワニヘモグロビン特有のアロステリック制御の解明	1,070,000
	2024-4085	南方 宏太			慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻生命システム情報専修	博士後期課程2年	イトマキヒトデ成体の開放循環系における、細胞性免疫応答の進行に伴う細胞外小胞の質的変化の解析	960,000
	2024-4086	川崎 由乃	女		神奈川大学大学院理学研究科理学専攻	博士前期課程2年	ロングリードNGSを活用した海水内微小環境に対する海水藻類の応答機構の解析	1,100,000
	2024-4034	吉川 咲帆	女		東海大学大学院工学院応用理化学専攻	修士課程1年	細胞内自由鉄(Fe ²⁺)減少による造血幹細胞の代謝機構の変化とそれに伴う細胞運命決定への影響	810,000
	2024-4069	君島 愛美	女		日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻	博士後期課程3年	実験室進化モデルを用いたう蝕原性細菌のスクロースへの適応性評価	880,000
	2024-4110	長田 莉奈	女		北里大学大学院医療系研究科医科学専攻	修士課程2年	細胞間接着関連分子αN-Cateninの機能と作用機構の解明	450,000
	2024-4053	伊藤 光輝			北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻	修士課程2年	マナマコApostichopus japonicusのdiscoidin様タンパク質の機能解析	870,000
	2024-5018	沼尾 海斗			北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻	修士課程2年	なぜ老いには個体差が生じるのか？：老化期間を決定する分子機構の解明	610,000
	2024-5048	横山 晟和			北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻	修士課程2年	タナゴ亜科魚類の繁殖季節分化における生理・生態学的研究	350,000
	2024-4093	杉田 陽美季	女		麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻	博士前期課程2年	哺乳類の受精時に認められるCa ²⁺ オシレーションの生物学的意義の解明	820,000
長野県	2024-5041	細井 彩	女		信州大学大学院総合理工学研究科理学専攻	修士課程2年	解剖学的手法を駆使した樹木細根の寿命の決定：短命あるいは長寿の細根はどのような内部構造なのか？	1,040,000
新潟県	2024-5011	小林 幸平			新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻	博士前期課程2年	都市環境における生物間相互作用や人為的影響がヘビ類の生態や形態変異に及ぼす要因	530,000
富山県	2024-4035	杉山 聖典			富山大学大学院医学薬学教育部薬科学専攻	博士後期課程3年	嗅覚と代謝の連係機構を活用した糖尿病と合併症の新規防止法の確立	970,000
	2024-5016	山澤 泰			富山大学大学院理工学研究科地球生命環境科学プログラム	修士課程1年	モグラ科動物のトンネルを利用する動物の生態把握に向けたトンネルカメラトラップ法の開発	790,000
	2024-4089	栗田 紘生			富山大学大学院理工学研究科理工学専攻地球生命環境科学プログラム	修士課程2年	植物細胞の細胞分裂面を決定する分裂準備帯の形成機構におけるKCHキネシンの役割の解明	890,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
富山県	2024-4108	岡本 侑樹			富山県立大学大学院総合工学専攻生物・医薬品工学部門	博士後期課程1年	FRET現象を活用した活性型ビタミンD3可視化技術の開発および作用機序解明の革新的研究	1,100,000
福井県	2024-4090	矢野 幹季			福井県立大学大学院生物資源学研究科海洋生物資源学専攻	博士前期課程2年	魚類刺毒様タンパク質に着目したウナギ目魚類由来新奇血清毒の同定	890,000
岐阜県	2024-4103	藤原 早紀	女		岐阜大学大学院自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻	修士課程2年	コリン作動性神経の時計機能による新規体温リズム調節のターゲット因子探索	850,000
静岡県	2024-5033	朝比奈 美緒	女		静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻	修士課程2年	細胞壁成分特性から植物のA1集積レベルを規定する要因を探る	750,000
	2024-4048	藤川 晃規			静岡大学大学院総合科学技術研究科理学専攻	修士課程2年	マナマコ横切断からの再生実験系を用いた生殖巣の再生とトランスジェニック生殖細胞産生の試み	820,000
	2024-4031	横屋 稜			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球学研究群	修士課程2年	受精イオン環境におけるマガキガイ異型精子の運動と細胞応答の解明	690,000
	2024-4098	末松 知宙			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程2年	温帯と亜熱帯を縦断する沿岸性魚類のゲノム系統地理：ミミズハゼをモデルとして	1,300,000
	2024-4106	旗 祥太			静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府薬科学専攻	博士前期課程2年	シアリダーゼアイソザイムNEU2の機能解明を基盤とした新規パーキンソン病治療薬の開発	820,000
愛知県	2024-4033	遠山 藍夏	女		総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻	博士後期課程2年	新規バイオセンサーの開発による上皮細胞増殖因子EGFの可視化	1,220,000
	2024-4028	縣 歩美	女		東海国立大学機構名古屋大学大学院生命農学研究科植物生産科学専攻	助教	野生イネが種内で示す穂形態多様性の遺伝学的解析	900,000
	2024-4062	花崎 拓人			名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻	博士後期課程3年	持続的Ia線維活動抑制のIa線維興奮性入力と運動機能への影響について-新規痙縮治療法確立を目指して-	610,000
	2024-4025	山田 麻祐子	女		名古屋大学大学院生命農学研究科応用生命科学専攻	修士課程1年	植物の概日時計におけるタンパク質リン酸化反応	1,050,000
	2024-5015	渡邊 彩音	女		名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻	博士後期課程1年	動物種ごとの量的・質的な種子散布機能の違いがヤマモモの実生更新に与える影響	820,000
	2024-4007	栗田 岳歩			名古屋大学大学院理学研究科理学専攻生命理学領域	博士前期課程2年	海洋由来黒色酵母における細胞分裂及び成長様式の可塑性について	850,000
	2024-4024	LEE Ming-Liang		台湾	自然科学研究機構生命創成探究センター	特任助教	全身の体温調節における脳内グルコース感知神経細胞の役割の解明	1,050,000
三重県	2024-4003	股村 真也			三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士後期課程2年	肉牛生産における穀物資源の有効利用を目指す：機械学習と近赤外分光法による牛糞中栄養素の迅速測定系開発	1,210,000
	2024-4046	塚田 秋葉	女		三重大学大学院生物資源学研究科生物圏生命科学専攻	博士前期課程2年	摂餌生態から鯨類の社会構造を探る安定同位体比分析によるアプローチ	400,000
滋賀県	2024-5045	朝倉 日向子	女		京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	寄生生物による行動操作の月齢依存性：ハリガネムシは満月の夜に宿主を入水させる？	980,000
京都府	2024-4015	上西 日向子	女		京都工芸繊維大学大学院応用生物学専攻染色体工学研究室	修士課程1年	ショウジョウバエ神経細胞におけるpolyPとハイブシン化eIF5Aによる翻訳制御の生物学的意義の解明	900,000
	2024-4055	Godfrey Hunter		アメリカ	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所	博士課程1年	環境DNAおよび従来手法を用いた種特異的な魚礁の有効性評価	1,340,000
	2024-5020	仲井 大智			京都大学総合博物館	研究員	掘削運動における椎骨の適応形態の探索と異節類における形態進化機構の解明	410,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2024-5006	中 寫 聖 朗			京都大学大学院応用生物科学専攻	博士後期課程1年	シロアリの埋葬行動による巣材共生放線菌への影響および巣の耐病機構の解明	460,000
	2024-4082	関 間 花 梨	女		京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻	博士後期課程1年	マングローブ林の持続的な資源利用のあり方-ムンバイの開発による生態系撓乱に伴う資源利用の変化-	820,000
	2024-4087	増 田 夢 佳	女		京都大学大学院生命科学研究所統合生命科学専攻	博士後期課程1年	緑藻クラミドモナスのピレノイドをモデルとした相分離オルガネラ形成異常株の単離と解析	790,000
	2024-4037	千 田 哲 朗			京都大学大学院農学研究科応用生物資源科学専攻	博士後期課程1年	形態の地理的変異はなぜ生じるか～日本列島の地史とカジカ類に着目して～	1,080,000
	2024-4001	丸 山 世 倫			京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻	博士後期課程2年	中鎖脂肪酸トリグリセリドの摂取・代謝を脳に伝える新規生理活性物質の作用機序の解明	1,040,000
	2024-5008	池 田 颯 希			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	コケ食ダニの多様な口器形態はいかにして生じたか：寄主の形態との相関を探索	640,000
	2024-5044	土 居 健 央			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	植物の匂い物質の多様性と気温の関係	1,120,000
	2024-5046	増 田 理 子	女		京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	植物における核型進化と種分化の関係	640,000
	2024-5027	VELEZ ESPERILLA FERNANDO ANTONIO		スペイン	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士後期課程2年	第四紀の海水面変動が東南アジアのフヨウ属オオハマボウ節植物の種分化に与えた影響	930,000
	2024-5001	柳 拓 明			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物	博士後期課程2年	ミミズ専食ヘビの素早い捕食行動の機能とメカニズムの解明	1,130,000
大阪府	2024-4023	松 田 佳 祐			大阪大学大学院生命機能研究科	ポストドクトラルフェロー	藻類の形態多様性が生じるメカニズムとその意義	500,000
	2024-4111	津 島 綾 子	女		大阪公立大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	助教	植物病原真菌の出現と同じ進化軌道を示す機能未知遺伝子の役割	750,000
	2024-4041	中 村 俊 介			大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	修士課程2年	海産カジカ科魚類のホヤやカイメンへの卵寄託による種間相互作用が生み出す産卵管長の種内変異	1,010,000
	2024-5010	近 藤 湧 生			大阪公立大学理学研究科生物学専攻	特任研究員	野生メダカの繁殖生態の解明：野外調査とDNA解析から解き明かす実験室外でのモデル生物の生活	1,500,000
	2024-5036	Chia-Tang Ho		台湾	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻	博士課程4年	ウシ卵子の成熟培養中に形成される顆粒層細胞領域内クラスターの生理学的意義の解明	970,000
	2024-4063	川 戸 翔 太			近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻	博士後期課程1年	植物タイプと光合成細菌タイプをハイブリッド化した色素結合タンパク質の創製と機能解析	1,100,000
	2024-4021	山ノ井 俊宏			大阪大学大学院連合小児発達学研究科	博士後期課程1年	社会性を支配する神経細胞の情報出力装置の制御分子メカニズム	970,000
兵庫県	2024-5014	朝 田 愛 理	女		神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間環境学専攻	修士課程2年	火入れ草原において絶滅危惧植物種が維持される環境の解明；土壌物理化学特性に着目して	970,000
奈良県	2024-4040	高 橋 空 良			奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士後期課程2年	ワイン酵母における潜在的なエタノール高生産メカニズムの解明とその生理学的意義	1,180,000
	2024-4050	倉 田 大 地			近畿大学大学院農学研究科農業生産科学専攻	博士後期課程1年	花の模様形成を解明する鍵となる部位特異的なMYB転写因子の選択的スプライシング	840,000
和歌山県	2024-4038	中 村 有 孝			和歌山県立医科大学薬学部	助教	炎症性因子としてのAif1の分泌・放出機構の解明	820,000
鳥取県	2024-5024	石 井 直 浩			鳥取大学乾燥地研究センター	特命助教	モンゴル草原におけるネギ属植物の近縁種間・種内の倍数性変異と菌根菌群集の関係	1,040,000
岡山県	2024-4088	元 木 航			岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域	助教	キャベツ茎頂のフロリゲンへの応答性差異を生み出す遺伝子の同定	1,160,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
岡山県	2024-5030	西村 和紗			岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域	助教	高速遺伝子型決定技術とレガシーデータの活用による野生コムギの地域適応機構の遺伝学的解明	590,000
	2024-5023	勝俣 沙智	女		岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域	特任助教	動物型ロボットは動物の孤独ストレスを軽減しうるか：ロボットとのフレンドシップの構築	1,120,000
	2024-4056	古谷 優治			岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科	博士前期課程2年	ホスファチジン酸-Hippo経路に着目した熱依存的なSAFB顆粒形成に関与するシグナル伝達機構解明	970,000
	2024-4073	川島 将人			川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科	助教	マクロファージにおける温度受容と組織修復能との関係：温度刺激でマクロファージの機能を強化できるか？	880,000
広島県	2024-4004	矢野 温士			広島大学大学院統合生命科学研究科生物資源科学プログラム	修士課程2年	サンゴへの褐虫藻供給ソースとしてのシャコガイの重要性	1,330,000
	2024-5037	林 舜			広島大学両生類研究センター	研究員	カジカガエル地域個体群をモデルとした性染色体の退化機構の解明	910,000
山口県	2024-4109	藤野 郁	女		山口大学大学院共同獣医学研究科	博士課程1年	ほ乳類初期胚の発生が倍数化によって阻害される分子メカニズムの解明	1,400,000
	2024-5031	神田 旭			山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス系専攻	博士後期課程2年	カプトムシの武器に形態的多様性をもたらす進化メカニズムの解明	1,020,000
徳島県	2024-5034	井上 慎太郎			徳島大学バイオイノベーション研究所産業生物系部門昆虫生産分野	特任研究員	飛ぶための遺伝子による翅模様形成の遺伝的メカニズムの解明	900,000
愛媛県	2024-4060	黒澤 悠輝			愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻	博士後期課程1年	海洋細菌による珪藻ウイルスの利用を検証する	1,020,000
高知県	2024-4102	福塚 理佐子	女		高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻	修士課程2年	砂浜に生息するスナガニ類の分布生態に与える人為的影響について	580,000
福岡県	2024-4009	林田 幸久			九州工業大学大学院情報創成工学専攻	博士後期課程1年	巨大化細胞を用いた拡張計測によるシグナル伝達機構の解明	900,000
	2024-4112	Anamika Datta	女	バングラデシュ	九州大学大学院システム生命科学研究科幹細胞生物学分野	一貫制博士課程5年	リボソーム内における細胞多能性獲得を担うドメインの同定	1,140,000
	2024-5012	井上 修吾			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻	修士課程1年	キクイゾウムシ亜科（コウチュウ目ゾウムシ科）における穿孔型産卵習性の進化プロセス解明	830,000
	2024-4078	常川 光樹			九州大学大学院生物資源環境科学府生命機能科学専攻	修士課程1年	アカエイをモデルとした胎生軟骨魚類の母子免疫機構の解明	930,000
	2024-5039	相知 紀史			九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻	修士課程2年	ヤミサラグモ属でみられる「はさみこみ型」交接という特異な生殖隔離機構の解明	950,000
	2024-4006	小俣 裕司			九州大学大学院薬学府創薬科学専攻	博士後期課程4年	環状RNAは新規の概日リズム制御因子になり得るか？	970,000
長崎県	2024-4058	加藤 理子	女		長崎大学大学院総合生産科学研究科共生システム科学コース水産生物資源分野	博士前期課程1年	生物多様性の象徴”ウミウシ”の群集構造は20年、40年でどう変わったのか？	880,000
	2024-4070	晴木 啓二郎			長崎大学大学院総合生産科学研究科総合生産科学専攻	博士前期課程1年	マメダコ雄の交接腕防衛行動の検証－雄による交接腕防衛の秘策とは？－	1,200,000
	2024-4075	安齋 沙矢乃	女		長崎大学大学院総合生産科学研究科共生システム科学コース水産生物資源分野	修士課程1年	オオグソクムシの代謝スケールアップ：深海生物の活動代謝余量に迫る	700,000
	2024-4019	堀井 幸子	女		水産研究・教育機構水産資源研究所海洋環境部	研究員	海洋酸性化が鉄制限海域の一次生産に及ぼす影響の解明－現場実験の多様な増殖応答に着目して	960,000

〔生物系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
鹿児島県	2024-4080	荒川 奈那美	女		鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻	博士課程3年	飼育下イルカのQOL向上に関する研究：「飼料・病態・環境」の評価基準確立と標準化	1,260,000
	2024-4026	佐々木 拓			鹿児島大学大学院連合農学研究科農水圏資源環境科学専攻	博士後期課程1年	魚類仔魚の色覚と摂餌嗜好性に着目した新規魚類用ベビーフードの開発	960,000
沖縄県	2024-4017	木村 ルカ 豊			琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻	修士課程2年	沖縄島サンゴ礁域のサウンドスケープの解明と安価受動的音響調査法の検討	830,000
	2024-5004	菊池 隼人			琉球大学理学部	博士研究員	植生に着目した希少種ケナガネズミの行動圏および利用環境の解明	880,000
	2024-4095	李 峻浩		韓国	沖縄科学技術大学院大学	博士後期課程2年	中心体増幅の監視機構とその異常に伴う細胞がん化の解明	1,220,000

2024 年度 複合系総評

複合系選考委員会委員長

複合系の研究は、文字通り、複数の研究分野が関係していますが、おのずと、主体になる分野とサブの分野があります。そこで、主体になる分野によって申請を分類し、分担して審査します。以下、主体になる分野ごとの総評です。

生物分野

申請書に記述説明されている目的が明瞭で、かつ、期間内に成果獲得ができるように記述されているか、また、適正な経費見積もりであるのかという観点で審査を行いました。微生物、なかでもメタン菌を利用した有機廃棄物処理に関係した研究提案が複数あり、メタン発酵が脚光を浴びつつあるところがかがえます。今年度は農業生産の効率化、社会貢献、SDGs に資する研究が目立ちました。基礎科学、社会科学に関係する申請もありましたが、これらは将来的には情報学などとの分野融合研究として発展が期待されます。

化学分野

笹川科学研究助成の学術研究部門は、人文・社会、数物・工学、化学、生物、複合の5分野の研究を助成するもので、そのうち「複合」は、特に、生体関連物質と生体機能分子の複合体を主たる対象としています。生体特異反応を利用する系についての研究も多く、具体的には、医薬の開発・分子設計、薬効の発現時間の調整や、クラスタリングの制御、生体特異成分の機能制御などが対象とされます。

看護分野

本年度の申請課題は動物実験を介した仮説検証研究が多く見受けられました。研究対象が、人間生活のなかから生まれた仮説を動物実験により検証する場合、乱暴な研究計画になってしまうことがあります。それらを避けるためには、仮説の設定時には十分な文献検討が必要です。必要であれば研究計画の中に観察研究などを交え、仮説が動物実験によって実施することが妥当かどうかについても十分な検討が必要です。今後は、観察研究などの質的研究と実験研究などの量的研究など、手法の異なったアプローチを同時に行っていく混合研究などの取り組みも重要になっていくものと思われます。

地球科学分野

地質学分野では常套的研究手法や従来のアイデアに縛られた研究計画が多く見受けられました。着実な成果を出発点に研究の展開を図るプランは評価できますが、笹川研究助成では冒険を顧みない挑戦的なテーマに取り組むことを強く推奨しています。既存のアイデア・手法に囚われることのない挑戦的なテーマを期待します。一方、惑星科学分野では若い研究分野であることを反映したのか、モチベーションの高い挑戦的な課題が多く見受けられました。

全般的に卒業研究、修士研究を土台に発展させる研究計画が多く見受けられました。しかし、多くは、いままでの研究を無批判的に受け継いだ、単純な延長線上のものが多く、視野の狭い研究に陥る恐れがあります。特に博士課程の研究では、今までのアイデアやスタイルを一度リセットして新たに組み直すという作業も必要ではないでしょうか？欧米の大学では修士の研究と博士の研究を強制的に切り離している所も多くあります。

人間科学分野

いつもながらテーマが多様性に富んでいるのは、複合系の特徴です。一方、研究内容は非常に小さいか（1分子）、疫学的にヒトのデータをとるだけのものが多く見受けられました。1分子研究も細胞や身体につなぎ、What is Life?など、もっと深く根源的な生命現象を問うことを期待します。ヒトのデータをとることは極めて重要ですが、細胞と身体の生命科学基盤について考えることが必要でしょう。全体的には、斬新なアイデアに基づく挑戦的・萌芽的な課題が減少したという印象は否めません。一方、ヒト検体の仙腸関節の解剖観察から着想を得た、「ヒト骨盤内の仙腸関節における表面形状と関節運動をつなぐ新しい学理構築」は高い評価を受けました。超高齢社会において、長年の悪癖による歪んだ姿勢は関節疾患の原因となり、寝たきりなどQOLの低下とリンクしています。難病指定されている強直性関節炎のメカニズム・予防法解明や、高齢社会の整形外科疾患の予防法解明につながるよう、医師だけでなく理学療法士や、マテリアル研究者も巻き込んで新しい分野創成につなげてもらいたいと思います。また、バトミントンやテニス、バスケットボール、サッカーなどのターン動作や過度のマラソンなど、着地動作のスポーツ障害として頻発する膝前十字靭帯（ACL）損傷に対して、スタンダードに行なわれる元の靭帯を除去してしまう再建手術ではなく、保存療法に着目した研究も高い評価を受けました。細胞が本来もつ力を分子レベルで解明することで、靭帯損傷に至らないための運動や栄養の提案など、予防法の提案につながるものが期待できます。

申請者の男女比は大きく偏りがあります。申請者の所属分野が、女性が少ない物理系やスポーツに偏っていたからとも考えられますが、これらの分野での多様性増加を期待します。また、学生時代に専門分野に特化した勉強や実験をするだけでなく、インターンや短期留学などを通して、多様な経験をすることは極めて重要です。同様の理由から、思考回路を狭くしてしまうことにつながる「高校で文理を分ける」ことへの再考をあらためて惹起したいと思います。

その他の分野

複合系の審査の場合、異なる研究分野の申請を比較して審査することが必要になります。今年度は、特に、さまざまな研究分野からの申請がありました。①生物学関連、②環境問題、③地質・鉱物学、④地理学、⑤文化財保護などの研究分野の申請がありました。異なる分野の研究を比較して、採択の判断をするとき、いかなる基準で評価するのか、以下に示します。

1. 研究テーマに独自性があるかどうか、評価の基準になります。大学の場合、研究室の大きな研究テーマがあります。その研究の一端を担うような研究テーマの評価は、高くすることが難しいと思います。なるべく、特色のある研究テーマが望ましいのです。その意味では、先行研究の少ない研究分野の採択率が高くなります。
2. 研究の成功率の推測も、評価の際に考慮します。研究目標は魅力があっても、この手法では成功しないのでないか、と思わせる申請の評価は、高くすることができません。しかし、成功するのが分かっているような研究テーマの評価も高くない。その意味で、研究テーマの選択は難しいのです。
3. 研究テーマによって採択・不採択を決めることはありません。逆にいえば、研究テーマは、どのようなものでよいのです。この研究は、面白いと思った問題は、先行研究がなくとも、研究テーマになりえます。意表をついた研究は「イグノーベル賞」の対象になりますが、そのような研究テーマが、複合系に申請されたら面白いと思います。

〔複合系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2024-6008	豊原 涼太			北海道大学工学研究院	特任助教	ヒト骨盤内の仙腸関節における表面形状と関節運動をつなぐ新しい学理構築	900,000
	2024-6023	高橋 奏太			北海道大学大学院生命科学学院ソフトマター専攻	博士後期課程1年	変形菌の子実体形成時における「賢い」胞子散布戦略を解き明かす:受動的拡散の基礎研究	900,000
	2024-6028	劉 雨杉	女	中国	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻	博士後期課程1年	脳出血後の間葉系幹細胞移植とトレッドミル運動の併用療法の治療効果の検証および責任因子の網羅的探索	900,000
青森県	2024-6026	佐藤 一輝			弘前大学大学院地域共創科学研究科地域リノベーション専攻	修士課程2年	塩類マッピングによるタフオニの形成プロセスの解明	750,000
茨城県	2024-6027	岡 智将			筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学研究群	博士後期課程3年	ストレス応答機構の制御に向けた Heme-regulated inhibitor 活性制御機構の解明	400,000
	2024-6016	林 利有樹			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群	修士課程2年	水圏に生息する糸状藻類の繊維を用いた環境負荷の低い製紙技術と機能紙の開発	960,000
埼玉県	2024-6035	熊谷 竜徳			埼玉県立大学大学院リハビリテーション学専修	修士課程2年	自己治癒した膝前十字靱帯における機械感受性の解明～機械感受性イオンチャンネルに着目して～	900,000
	2024-6034	斉藤 陸			埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科	博士後期課程1年	前十字靱帯損傷後の再建靱帯及び自己治癒靱帯のリモデリングプロセスの解明	850,000
	2024-6030	伊藤 実央	女		埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科	博士後期課程2年	脳卒中片麻痺者の随意運動機能回復の基盤となる末梢神経筋機能の基盤解明	900,000
	2024-6003	伊東 優希	女		立正大学大学院地球環境科学研究科環境システム学専攻	博士後期課程2年	都市地下水から海洋へのマイクロプラスチックの流出負荷についてー東京湾岸低地における実証研究ー	1,220,000
千葉県	2024-6032	李 敏	女	中国	千葉大学大学院融合理工学府創成工学専攻	博士後期課程3年	中国南京市余村における歴史遺構・潘氏祠堂の文化的価値の再認識に基づく持続的地域活性化	900,000
	2024-6040	平峰 玲緒奈	女		国立歴史民俗博物館	プロジェクト研究員	堆積物中の漂着軽石に基づく過去の海域火山噴火イベント解明の試み:南西諸島の漂着軽石濃集層を用いて	620,000
東京都	2024-6037	山崎 友莉	女		総合研究大学院大学先端学術専攻極域科学コース	一貫制博士課程2年	東南極トッテン氷河沖の海底堆積物を用いた近過去の南極氷床融解史の復元	750,000
	2024-6039	MONCHINSKI COURTENEY SUMMER	女	アメリカ	東京工業大学大学院地球生命研究所理学院地球惑星科学系	博士後期課程1年	火星衛星の起源:氷天体衝突説の検討	900,000
	2024-6013	橋本 講司			東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	助教	人工非コードDNAで細胞を制御する	900,000
	2024-6024	Wutisiriratt anachai Tassapak		タイ	創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程1年	高含水率有機廃棄物の水熱炭化による燃料及び肥料利用を目的とした持続可能な資源利用の革新的手法の確立	850,000
	2024-6038	丸山 大喜			創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程1年	導電性担体の表面化学修飾によるメタン発酵微生物の選択的凝集と処理性能評価	850,000
	2024-6012	佐藤 結佳子	女		東京農業大学大学院地域環境科学研究科地域創成科学専攻	博士前期課程1年	ウォーターフロントにおけるナイトタイムコンテンツ活用したアーバンツーリズムの創出	500,000
	2024-6031	前原 ななみ	女		日本女子大学大学院理学院研究科物質・生物機能科学専攻	博士前期課程2年	疾患のサインを捉え、進行度を見積もる高分子MRIプローブの開発	850,000
	2024-6036	後藤 大亮			明治大学大学院先端数理科学研究科現象数理学専攻	博士後期課程1年	世界はいつ、なぜ二極化するのか?ー統計物理学および現象数理学の視点からー	900,000
	2024-6015	守屋 正道			東京都健康長寿医療センター研究所老化脳神経科学研究チーム自律神経機能研究	非常勤研究員	前脳基底部機能不全の関与と脳内炎症ネットワークに基づくICU認知機能障害の解明	800,000

〔複合系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
神奈川県	2024-6005	伊藤 貴仁			横浜市立大学大学院生命医科学専攻	博士後期課程3年	GalNAc搭載ペプチドの肝臓選択的核酸のデリバリーへの応用	900,000
	2024-6009	黒山 喬允			防衛大学校理工学群地球海洋学科	講師	音響キャビテーションノイズを用いる広帯域エコーサウダの開発	1,340,000
長野県	2024-6020	塔川 岳大			信州大学大学院総合理工学研究科理学専攻	修士課程2年	諏訪湖におけるマイクロプラスチック発生源の解明	900,000
新潟県	2024-6014	Trihatmoko Kharisrama		インドネシア	長岡技術科学大学技術科学イノベーション専攻	一貫制博士課程4年	東南アジア水環境汚染大きな原因であるタピオカ廃水を対象とした高度な嫌気性処理システムの開発	900,000
	2024-6017	木村 玲雄			長岡技術科学大学大学院先端工学専攻エネルギー工学分野	博士後期課程1年	骨欠損部の補填と治療を両立する微量塩素ドーブ非晶質シリカ粒子表面の創製	850,000
富山県	2024-6029	藤見 唯衣	女		富山大学大学院理工学専攻	修士課程2年	浮遊性有孔虫殻の個別個体洗浄システムの開発と黒潮大蛇行の発生頻度の解析への応用	780,000
石川県	2024-6004	小手川 福笑	女		北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士後期課程3年	アップコンバージョンナノUV光源の創製とin vivo光化学反応への応用	850,000
愛知県	2024-6011	松山 和樹			名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士後期課程1年	かんらん岩から紐解く海洋リソフェアマントルの進化過程	1,120,000
	2024-6001	福島 拓			愛知医科大学大学院医学研究科基礎医学系生理学専攻	博士後期課程2年	運動による長期的な転写制御機構の解明：エビゲノム修飾酵素PHF2に着目して	850,000
滋賀県	2024-6033	林 昭安	女	台湾	立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科	博士後期課程2年	アスリートの健康増進に資する「低酸素コンディショニング法」の開発：鉄代謝および造血作用に着目して	850,000
	2024-6007	高山 卓大			立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室	助教	富山湾海洋深層水中D-アミノ酸の包括的分析と線虫に及ぼす寿命延長効果の検証	1,260,000
	2024-6002	光斎 翔貴			立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	准教授	未利用植食性魚類の漁獲による天然藻場回復のブルーカーボン効果分析：LCAの観点から	1,120,000
京都府	2024-6025	三津川 到			京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程2年	マントル内有機物合成反応における鉱物の触媒作用検討：ダイヤモンドアンビルセルを用いた合成実験	1,230,000
大阪府	2024-6006	佐々木 勇人			大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻	博士後期課程1年	断層の摩擦-流動遷移機構の解明：粒子分散系のジャミング転移を応用した実験的研究	900,000
兵庫県	2024-6021	藤田 眞大			神戸大学大学院海事科学研究科海事科学専攻	博士前期課程2年	沿岸海域における海洋酸性化に対するpCO ₂ の寄与とpCO ₂ 変動要因の解明	1,120,000
	2024-6019	後藤 聡汰			神戸常盤大学保健科学部診療放射線学科	助教	医療被曝に対する国民の自衛意識向上を目指したX線CT検査の被ばく線量実測法の開発	850,000
徳島県	2024-6018	福田 翔一郎			徳島大学大学院医歯薬学研究部薬物動態制御学分野	博士課程3年	イオン液体を新規吸収促進剤として利用した難吸収性化合物の腸管吸収促進技術の開発	850,000
福岡県	2024-6010	高井 優生			九州大学大学院農学研究科	助教	フタル酸エステル類に着目したマイクロプラスチック汚染の評価～フナムシの糞で環境モニタリング？～	1,110,000
	2024-6022	緒方 悠岐			福岡大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程2年	mRNA非翻訳領域のRNA編集による遺伝子発現制御機構の解明と技術応用	800,000

2024 年度 実践系総評

実践系選考委員会委員長

2024 年度の実践研究計画の選考結果を踏まえ、次年度の申請の際に参考にさせていただきたい点について以下に記します。実践研究部門は、毎年、実践研究A「教員、NPO職員が行う問題解決型研究」と実践研究B「学芸員・司書等が行う調査・研究」に分けて募集しています。

本年度の全体傾向と特徴

本年度は、例年この総評で述べてきた「実践研究」の位置づけや意味合いが、申請者の皆さんとも徐々に共有でき始めているのではと思える申請に何件か出会うことができました。これは、本研究助成の経過からもたらされる蓄積として評価してよいのではないかと考えます。しかし、実践研究の深化に向けては、まだまだ課題が残っているように思います。

また、「海洋」をテーマとした研究や特別支援教育、教科・教育・教材研究など、意欲的な研究計画が多くありました。これらの研究は、実践の中で生まれた問題意識に基づいており、独自性や社会性が高いと評価できます。学芸員・司書等が行う調査・研究の申請件数は、減少傾向にありました。博物館に所属する者の応募が最も多く、自然系博物館や人文系博物館からも応募がありましたが、図書館や公民館からの応募はありませんでした。改正博物館法に伴い、デジタル技術の活用や地域連携を意識した申請が目立ちましたが、これらの施設の役割や可能性を探る研究も必要だと思えます。

いくつかの申請書では、実践研究部門の助成の方針と特徴の理解不足や実践の場をもっている申請者であっても「実践を通じて課題解決を目指す」というより、課題そのものを研究する研究計画として学術研究部門に申請されるべき研究も見受けられました。研究方法論も、実践の中から理論を構築するために、適切なものを選ぶ必要があります。

研究経費は、研究そのものに使用することが望ましく、学会参加費や図書費などは、研究の成果を発信するためや研究の資料とするために必要なものですが、研究の本質ではありません。

実践研究A「教員・NPO職員が行う問題解決型研究」

学校教育現場の授業研究や学術研究としての申請も見受けられ、実践研究としては不適切なものもありました。研究の社会的波及効果や実践的成果に関する記述は、具体的でなければなりません。その一方で、本年も、学校教育現場における授業研究の延長線上の枠組に閉じたもの、また学術研究として助成を別途追求した方が適切とみられるものが見られました。これらの申請は、実践研究としての趣旨や期待に応えるものではありません。また、研究の社会的波及効果や期待される実践的成果に関する記述が具体的でないため、その点に関するプログラム評価が難しいケースが見られました。この点での改善も引き続き必要だと思います。

実際、なかなか研究費が得にくい現実があるとは思いますが、「第一線で活躍する専門的立場にある者を対象にした、数ある民間研究助成の中でも他に類を見ない制度」「ますます多様化・複雑化する社会が生み出す新しい課題に向かって果敢にチャレンジし新しく途を開くような研究」という本研究助成の趣旨や期待にあるはずの、より広く地域的・社会的・現代的な文脈に即した申請が増えることを引き続き期待するとともに、その促進をはかることができればと考えます。

もちろん、研究の価値は多様な基準から評価されてしかるべきです。ただし、ここでは本研究助成がもつ上記の社会的意味合いに照らして評価がなされていること、またそうした評価を受けて助成を獲得する研究が増加することが社会的な価値を持つことを強調したいと思います。これについても、記載にあたっての留意点として、さらに強調した方がいいでしょう。

なお、「研究」というには調査等の方法論がナイーブ過ぎて、さしたる知見は得られないのではないかとみられるものについては、申請前に、所属組織等において十分精査の機会を持つこともぜひご検討いただきたいと思います。特に研究倫理の重視や研究機関内での研究倫理委員会での審査を経っていない研究計画、また助成申請の段階にまで至っていないと見られる案件については、まずは研究倫理に抵触しないか、あるいは基礎となる予備的な研究を経て申請に至るという判断も考慮に入れていただきたいと思います。この点では、推薦者の皆さまにもさらなるご指導・ご助言をお願いしたいところです。

実践研究B「学芸員・司書等が行う調査・研究」

実践研究部門の学芸員・司書等が行う調査・研究における申請件数は、ここ数年、減少傾向にあります。申請件数で見ると、一昨年度 27 件あったものが、昨年度 19 件、本年度はさらに減って 14 件となりました。申請者については、博物館等に所属する者の応募が大半を占め、美術館を含めた人文系博物館から 8 件、科学館を含めた自然系博物館から 3 件、埋文センターから 1 件の応募がありました。その他は大学からの 2 件で、昨年度応募があった図書館や公民館からは皆無でした。今後、博物館現場に加え、図書館現場や公民館現場からの申請件数の増加に期待したいと思います。

実践研究部門の申請には、以下の三つの特徴が見られました。第一に、コロナ禍やポストコロナを意識した実践研究が減少したことです。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行され、4 年ぶりに日常生活に戻ったことにより、このようなテーマに対する関心が低下したと考えられます。第二に、人文学の立場からの申請が低調であったことです。新しい機器・ソフトが開発される現状を踏まえ、より斬新な視点からの研究計画・提案がなされることが求められます。第三に、デジタル技術の活用や地域連携の推進に関する申請が目立ったことです。改正博物館法の施行に伴い、博物館 DX や市民協働・市民連携・市民参画・小中学生などをキーワードとする申請テーマが目立ったことも特色と言えます。

研究計画に対して研究費の使途が直接的に研究を遂行するために必要な経費か不明確な申請も散見されました。例えば、研究費のほとんどが、論文投稿費用や学会年会費、学会参加費、学会参加のための旅費である申請もありました。必要な図書費であれば、入門書のような書籍が研究にどのように関連するのか明記されていないものも計上されているケースもありました。また、実践現場で必要とされる教材や機器、備品を購入するための費用を捻出するための申請ではないかと懸念される研究計画も散見されました。そのほかにも、残念ながら、研究には関係のないような海外関連施設の視察を申請している研究者もいました。なぜ、当該施設を視察する必要があるのかを丁寧に記述していなければ、審査することはできません。この点は、研究者としての倫理や姿勢に照らして再考していただければと思います。研究助成を申請される際には、本助成制度の趣旨を今一度確認され、ご自身の研究計画との妥当性を吟味していただきたいと思います。

今後さらに、実践研究の多様性を尊重しつつも、本研究助成において申請が期待されている分野・課題・研究方法を引き続き追究することが重要になってきていると思います。そのこと自体が、我が国における実践研究の深化への貢献につながると考えるからです。

〔実践系〕

都道府県	研究 番号	氏名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
山形県	2024-8004	瀬戸 大暉			山形県立博物館学芸課	学芸員	山形県最上川流域から産する地学資料を用いたVR教材開発-小学生から学ぶ自然史-	350,000
茨城県	2024-8002	大槻 毅			流通経済大学スポーツ健康科学部	教授	高齢者の健康増進と防災学習による安全・安心なまちづくり：運動×防災教室による無関心層の行動変容	290,000
東京都	2024-8003	早川 詩音	女		(NPO)ガリレオ工房	理事	オンライン科学実験教室の事業化～貧困家庭など、科学館に行く機会の少ない子どもにも門戸を開く～	270,000
	2024-8005	樋田 有一郎			日本女子大学児童学科	学術研究員	地方郡部の高校生と都市の大学生の協働学習によって豊かで持続可能な高校教育と地域をつくる	340,000
神奈川県	2024-8010	小山 悠太			浅野中学・高等学校	教諭	海洋の模擬生態系を用いた物質循環の定量化と環境変動が生物に与える影響の検証	320,000
	2024-8006	和田 多香子	女		筑波大学附属久里浜特別支援学校小学部	教諭	知的障害を伴う自閉症児が示す行動問題への介入-教員と保護者の協働による実践モデルの開発-	360,000
長野県	2024-8001	山中 史江	女		筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所	技術専門職員	一般市民との協働による標本庫APG体系移行と教材用菌類標本整備及び青少年の参加促進に向けた手法開発	320,000
福井県	2024-8009	梅村 信哉			福井市自然史博物館	学芸員	市民連携による外来昆虫の分布拡大調査と、外来種問題の普及啓発のための教材づくり	300,000
香川県	2024-8007	小島 友佳	女		(NPO)クリーンオーシャンアンサンブル	理事	小豆島を舞台とした海洋ごみ問題解決への取り組み：クリーンオーシャンアンサンブル	360,000
熊本県	2024-8008	坂井 華海	女		熊本大学大学院自然科学教育部工学専攻	博士後期課程3年	多様なステークホルダーによる学際連携基盤の開発に関する研究	320,000

2024年度笹川科学研究助成 応募・採択状況

学術研究部門

領 域	人文・社会系	数物・工学系	化 学 系	生 物 系	複 合 系	合 計
採択件数	31件	33件	37件	156件	40件	297件
応募件数	136件	157件	173件	714件	169件	1,349件

属 性	大学院生		女 性		留学生及び外国籍研究者	
	件 数	全体比	件 数	全体比	件 数	全体比
採 択	225件	75.8%	98件	33.0%	33件	11.1%
応 募	1,005件	74.5%	424件	31.4%	153件	11.3%

実践研究部門

領 域	実践A系 教員・NPO等	実践B系 学芸員・司書等	合 計
採択件数	7件	3件	10件
応募件数	32件	14件	46件

2023年度笹川科学研究奨励賞 概要

【笹川科学研究奨励賞について】

日本科学協会では、笹川科学研究助成の対象者となった若手研究者の励みとなるよう、2007年度から「笹川科学研究奨励賞」を創設いたしました。

受賞者の選考にあたっては、「さまざまな理由で他から助成の得難い研究」を考慮した上で、次の視点を加えて笹川科学研究助成選考委員会で選出いたしました。

- ・研究の姿勢が真摯であること
- ・研究の遂行に創意と工夫の努力がうかがえること
- ・研究成果につながる結果を出していること
- ・今後の研究の進展が期待できること
- ・次年度以降も研究に従事すること

2023年度笹川科学研究助成においては、研究を完了した316名の中から、16名が「笹川科学研究奨励賞」に選出されました。

受賞者の研究内容については当会Webサイトで公開しておりますので、よろしければご覧ください。

HOME > 協会の助成活動 > 笹川科学研究助成 >

奨励賞 > 2023年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

<https://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/shoureishou/shoureishou2023.html>



2023年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

研究領域	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関：助成時	職名：助成時	研究課題
人文・社会系	2023-1006	高橋 亮一			國學院大学文学部史学科	非常勤講師	大正・昭和期日本における海洋生物保護の展開－ラッコ・オットセイを中心に－
	2023-1012	土井 冬樹			神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート	協力研究員	伝統芸能の舞台化と近代化：先住民マオリの伝統芸能大会の開催とその変遷
	2023-1028	千歩 弥生	女		中央大学大学院文学研究科社会学専攻	博士後期課程3年	ハンセン病療養所退所者のライフストーリー研究－各地域における多様な社会関係に着目して
数物・工学系	2023-2008	君塚 政文			東京都産業技術高等専門学校ものづくり工学科機械システム工学コース	助教	小型波浪観測ブイにおける評価方法の開発と最適筐体形状の解明
	2023-2014	澤原 馨登			筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学研究群化学学位プログラム	博士課程2年	脱炭素社会に向けた“連続した高圧水素供給”のためのギ酸脱水素化用固定化錯体触媒の開発
	2023-2026	Acharya Ashis		ネパール	島根大学大学院総合理工学部地球科学科	博士課程1年	分散型光ファイバーセンシングを用いた深部基盤岩内の地質水文モニタリング
化学系	2023-3010	田中 駿乃介			千葉大学大学院融合理工学府	博士後期課程2年	水素発生反応を高活性化する有機物の反応中界面構造と活性化因子解明
	2023-3025	中川原 亜依	女		群馬大学大学院理工学府物質・生命理工学教育プログラム	博士前期課程2年	1本の疎水鎖末端をフッ素化した新規部分フッ素化リン脂質シリーズの開発
生物系	2023-4005	村岡 勇樹			東北大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程3年	アメリカネムノキの葉の運動を駆動する温度センサーイオンチャネルSPORK2の温度感知機構の解明
	2023-4014	高橋 大輔			埼玉大学大学院理工学研究科	助教	Selaginella属植物の高い乾燥耐性に寄与する細胞壁コンポーネントの解明
	2023-5005	勝浦 柊	女		名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻	博士後期課程2年	カンボジア熱帯季節林における樹木の吸水深度特性の解明－気候変動に対する樹木の応答予測を目指して－
	2023-5043	原 直子	女		奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科化学生物環境学専攻	博士前期課程2年	濾過食者シマトビケラの生態機能を定量的評価する：ダム下流域における浄化機能を最大化する川作りを目指して
複合系	2023-6004	四元 まい	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻数理生命科学プログラム	博士後期課程1年	リン脂質分子膜の動的応答を指標とした匂い分析システムの開発
	2023-6012	川北 輝			北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士前期課程2年	メタバースにおける構成的グループ・エンカウンタの効果研究：孤独の解消を目指して
実践系	2023-8004	勝倉 明以	女		名古屋市立東丘小学校	教諭	国語教育を中心とした教科横断的な学習の学習効果に関する実践的研究
	2023-8006	高橋 佳久			北海道博物館	学芸員	文化財害虫（シミ目）に対する簡便な物理的防除方法の開発-多くの博物館で実践可能な対策を目指して-

公益財団法人 日本科学協会

発行日 2024 年 4 月 19 日

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階

TEL : 03-6229-5365 FAX : 03-6229-5369

e-mail : josei@jss.or.jp URL : <https://www.jss.or.jp>

